

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	英語	科目	English Communication III	3学年	必修	4単位
科目の目標	英語の文章を読んだり聞いたりすることにより視野を広げ、ことば・文化・人間・社会・自然などについて深く理解し、筆者や自分の考えを相手に伝える力を伸ばす。					
教科書	CROWN English Communication III		副教材	ワークブック		
準備物	教科書・ノート・辞書					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	35%	35%	30%
A	- 単語や文法などの既習事項を用いて、伝えたい内容に応じて適切に表現することができる。 - 文の構造などを正しく理解することができ、既習の知識を用いて筆者の意図や登場人物の感情等を適確に読み取ることができる。	- 英語を聞いて情報や考えなどを適確に理解したり概要や要点を十分に把握することができる。 - これまでに学んだことに基づき、初めて読んだり聞いたりする事柄について内容を十分に把握することができ、適確に表現できる。	- ことばの学習を通じて異文化への認識を深めるとともに、多角的に物事を見たり他者の意見を尊重する姿勢が十分養われている。 - あらゆる活動に積極的に取り組んでいる。
評点	30～35	30～35	25～30
B	- 単語や文法などの既習事項を用いて、伝えたい内容に応じて概ね表現することができる。 - 文の構造などを理解することができ、既習の知識を用いて筆者の意図や登場人物の感情等を概ね読み取ることができる。	- 英語を聞いて情報や考えなどを適確に理解したり概要や要点を概ね把握することができる。 - これまでに学んだことに基づき、初めて読んだり聞いたりする事柄について内容を把握することや表現することが概ねできる。	- ことばの学習を通じて異文化への認識を深めるとともに、多角的に物事を見たり他者の意見を尊重する姿勢が概ね養われている。 - あらゆる活動に取り組んでいる。
評点	11～29	11～29	11～29
C	- 単語や文法などの既習事項を用いて、伝えたい内容に応じて表現することが不十分である。 - 文の構造などを理解することや、既習の知識を用いて筆者の意図や登場人物の感情等を読み取ることが不十分である。	- 英語を聞いて情報や考えなどを適確に理解したり概要や要点を把握することが不十分である。 - これまでに学んだことに基づき、初めて読んだり聞いたりする事柄について内容を把握することや表現することが不十分である。	- ことばの学習を通じて異文化への認識を深めるとともに、多角的に物事を見たり他者の意見を尊重する姿勢が不十分である。 - 活動に取り組まない。
評点	～10	～10	～10
評価方法	定期考査・各種テスト・表現活動・提出物・授業の様子など		

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	Lesson 1 How language Shapes the Way We Think	・言語が思考にもたらす影響について、理解して考えを深める。
	Lesson 2 Weak Robots	・手助けを必要とする「ロボット」について、理解して考えを深める。
	Lesson 3 Fake News Is Everywhere:Beware!	フェイクニュースの危険性と対処方法について、理解して考えを深める。
5	Lesson 4 Beyond What Nature Intends	最先端義足の開発者ヒュー・ハー氏の活動について、理解して考えを深める。
6	Lesson 5 How to Beat Procrastination	・「先延ばし癖」の克服方法について、理解して考えを深める。
	Lesson 6 Today's Treasure, Tomorrow's Trash	・家電・電子ゴミ問題、企業戦略と消費者運動について、理解して考えを深める。
7	Lesson 7 Only a Camera Lens between Us	・武装解除に携わる瀬谷ルミ子氏の活動について、理解して考えを深める。
8	Lesson 8 Super Clone Cultural Properties	・スーパークローン文化財や美術品の補修と複製について、理解して考えを深める。
9	Lesson 9 Culture in the Animal Kingdom	・動物の文化について理解して考えを深める。
10	Lesson 10 Does Money Make You Mean?	裕福さと思いやりの関係、経済的不平等への対処について、理解して考えを深める。
11		
12～1	補助教材	・入試問題演習 ・速読を目的としたプリント学習 ・精読を目的としたテキスト講読

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- 1) 予習サブノートを活用し、十分な準備をして、理解が不十分なところを見つけ出し、授業に臨む。
- 2) 文章を読んで、おおよその内容や全体的な流れを把握する。
- 3) 文章の意味や内容を考え、語彙や文法事項を理解し、リズムやイントネーションを意識しながら、繰り返し音読を行う。
- 4) 授業中は、教科書・ノート・辞書・参考書等を活用しながら、授業内容の理解に努める。
- 5) 授業での言語活動(ペアワークやグループワーク、発表など)には積極的かつ主体的に取り組むこと。
- 6) 授業終了後は、ワークブック等を活用して必ず復習をし、知識の定着を図るとともに、参考書や問題集等を通じて、発展的な内容に自ら取り組むこと。
- 7) 週末、長期休業中の課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

令和6年度（2024年度） シラバス フォーマット I

教科	英語	科目	英語Advanced	必修	3単位
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、4技能(聞く・書く・読む・話す)の精度を高める。				
教科書	リンケージ英語構文100	副教材			
準備物	教科書・ノート・辞書				

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【行動力】 【共感力】
割合	25%	表現 (25%)	理解 (25%)	25%
A	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などをしっかり理解している。	学んだ文法を用いて、様々なトピックについて文章を書いたり、話したりすることができている。	音声教材やペアを組んだ相手の話を的確に捉えたり、パラグラフの構成や文章の要点を理解することが十分できている。	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとしている。
評点	19～25	19～25	19～25	19～25
B	言語やその運用についての知識を身につけているとともに、その背景にある文化などを理解している。	学んだ文法を用いて、限定的なトピックについて文章を書いたり、話したりすることができている。	音声教材やペアを組んだ相手の話を的確に捉えたり、パラグラフの構成や文章の要点を理解することができている。	コミュニケーションに関心を持ち、言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとしている。
評点	9～18	9～18	9～18	9～18
C	言語やその運用についての知識や、その背景にある文化などの理解が不十分である。	学んだ文法を用いて文章を書いたり、話したりすることが不十分である。	音声教材やペアを組んだ相手の話を的確に捉えたり、パラグラフの構成や文章の要点を理解することが不十分である。	コミュニケーションに関心を持ち、言語活動を通して、コミュニケーションを図ろうとする姿勢が不十分である。
評点	～8	～8	～8	～8
評価方法	定期考査 各種テスト	定期考査 表現活動	定期考査 表現活動	授業の様子

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	主な言語材料	具体的な学習内容
4	6 2～6 3	節	形容詞節
5	6 4～7 5	節	副詞節
6	7 6～8 1	構文	比較
7	8 2～8 3	構文	比較
8	8 4～8 6	構文	比較
9	8 7～8 9	構文	比較
10	9 0～9 4	構文	強調
11	9 5～1 0 0	構文	倒置・省略・挿入
12	共通テスト形式演習		リスニング
1	共通テスト形式演習		リスニング
2			
3			

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- 1) 参考書等を活用し、十分な準備をして、理解が不十分なところを見つけ出し、授業に臨む。
- 2) 授業中は、教科書・ノート・辞書・参考書等を活用しながら、授業内容の理解に努める。
- 3) 授業での言語活動（ペアワークやグループワーク、発表など）には積極的かつ主体的に取り組むこと。
- 4) 授業終了後は、ワークブック等を活用して必ず復習をし、知識の定着を図るとともに、参考書や問題集等を通じて、発展的な内容に自ら取り組むこと。
- 5) 週末、長期休業中の課題等に取り組むことを通して、家庭での学習習慣の確立を図ること。

令和6年度 シラバス

教科	理科	科目	化学	3学年	必修	2単位
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。					
教科書	化学 (数研出版)		副教材	新課程二訂版 スクエア最新図説化学 (第一学習社) 新課程 リードα 化学基礎+化学 (数研出版)		
準備物	教科書・ノート・スクエア最新図説化学					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験に関する技能を十分に習得している。実験データの収集し、分析・考察など化学的に探究することが十分にできる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が十分に養われている。
評点	33～40	33～40	17～20
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身につけている。実験に関する基本的な技能を習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することができる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が養われている。
評点	17～32	17～32	9～16
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験に関する基本的な技能の習得が不十分である。実験データを収集にとどまり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が不十分である。
評点	～16	～16	～8
評価方法	定期考査・実験レポート・小テスト	定期考査・実験レポート・小テスト	実験レポート・提出物 授業の感想等

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4月	第2編 物質の変化 第4章 化学平衡	緩衝液，溶解度積
	第4編 有機化合物	
	第1章 有機化合物の分類と分析	特徴と分類，構造の決定
5月	第2章 脂肪族炭化水素	飽和炭化水素，不飽和炭化水素
	第3章 酸素を含む脂肪族化合物	アルコールとエーテル，アルデヒドとケトン，カルボン酸とエステル，油脂とセッケン
	第4章 芳香族化合物	芳香族炭化水素，酸素を含む芳香族化合物，窒素を含む芳香族化合物，有機化合物の分離
6月	中間考査	
	第3編 無機物質	
	第1章 非金属元素	元素の分類と性質，水素，貴ガス，ハロゲン，酸素・硫黄，窒素・リン，炭素・ケイ素
7月	第2章 金属元素（Ⅰ）-典型元素-	アルカリ金属元素，2族元素，アルミニウム，スズ・鉛
8月	第3章 金属元素（Ⅱ）-遷移元素-	鉄，銅，銀・金，亜鉛，クロム・マンガン，その他の遷移金属，金属イオンの分離
9月	期末考査	
	第5編 高分子化合物	
	第1章 高分子化合物の性質	高分子化合物の特徴（構造・性質）
10月	第2章 天然高分子化合物	糖類，アミノ酸・タンパク質，核酸
	第3章 合成高分子化合物	合成繊維，合成樹脂，ゴム
11月	中間考査	
	演習	大学入学共通テストに向けた演習
12月	演習	大学入試問題の演習
1月	演習	大学入試問題の演習

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ・夏期講習で有機化合物の演習を行うため，順序を入れ替え，第4編 有機化合物を先に学習する。
- ・第4編 有機化合物は，生徒実験や演示実験を通じて，化合物の特徴を確認しながら進める。
有機化合物は，構造による性質の違い（異性体や官能基），各種反応を系統的に学習すると良い。
- ・第3編 無機物質は，生徒実験・演示実験を多く取り入れ，現象・変化を確認しながら進める。
無機物質における反応は，2年次に学習した酸と塩基，酸化還元反応を中心となるため，2年生までの学習をしっかりと復習してから臨むこと。水溶液や沈殿の色など覚えるなど，暗記の内容も多い。
- ・第5編 高分子化合物は，主に有機化合物の内容を踏まえながら学習する。
有機化合物の特有の反応なども登場するため，3年生前半の内容をしっかりと復習して臨むこと。
- ・3年生の化学は，ただ単純に覚えれば良い，というものでもありません。関連付けて考えることも重要です。
授業それぞれでしっかりと復習をして，次の授業に臨んでください。

令和6年度（2024年度） シラバス フォーマットⅠ【自然科学研究 化学基礎】

教科	理科	科目	自然科学研究(化学基礎)	3学年	選択	1.5単位
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
教科書	化学基礎	(数研出版)	副教材	新課程二訂版スクエア最新図説化学（第一学習社） 新課程 リードLight 化学基礎（数研出版）		
準備物	教科書・ノート・スクエア化学・リードライト					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【探求力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験データを収集し、誤差についても分析・考察するなど、化学的に探究する方法を十分に身に付けている。	化学的な事物・現象を、物質に関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が十分に養われている。
評点	32～40	32～40	17～20
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身に付けている。実験データを収集し、分析・考察するなど、化学的に探究する方法を身に付けている。	化学的な事物・現象を、物質に関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が養われている。
評点	17～31	17～31	9～16
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験データを収集にとどまり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質に関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が不十分である。
評点	～16	～16	～8
評価方法	定期考査・小テスト	定期考査・授業プリント	実験レポート・提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4月	第3章 酸化還元反応	金属の酸化還元反応
5月		酸化還元反応の利用
6月		第1編物質の構成と化学結合 第1章物質の構成粒子
	中間検査	
7月	総合演習 2	第2章物質の構成粒子 原子と構造・イオン・周期表
8月		第3章粒子の結合 イオン結合・共有結合・配位結合・分子間力
9月		高分子化合物・結晶
	期末検査	
10月	総合演習 3	第2編物質の変化 第1章 物質と化学反応式
11月		第2章酸と塩基の反応 第3章酸化還元反応
		共通テストに向けた総合演習
	中間検査	
12月	総合演習 4	共通テストに向けた総合演習
1月		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ① 授業中は、自分が今何を学んでいるのかを意識しつつ、それらを理解するために熱心に考えましょう。
- ② 教科書に書かれている文章の意味を正確に理解するため、丁寧に読みましょう。
- ③ 教科書や問題集に出ている重要用語について、文章で説明できるようにしましょう。
- ④ 現象を深く理解するために、グラフや表を用いて比較したり、関連づけたりできるようにしましょう。
- ⑤ 必要に応じて、先生や友達と学習内容について対話して、理解を深めましょう。
- ⑥ 観察や実験を行うときは、どのような結果になるかを予想したり、仮説を立てたりしながら進めましょう。
- ⑦ より深い理解のために、インターネットや図説を効果的に利用しましょう。
- ⑧ 適宜、学習内容を振り返って次の学びにつなげましょう。
- ⑨ 大学入試などの良問に取り組むことも、そのテーマの先達との対話であり、深い理解につながります。

← 学校要覧p41

学校要覧は教科の目標であるので, 科目の目標である学習指導要領の目標に変更

← ルーブリックから

理 科

教科名	理科	科目名	自然科学研究(生物分野)
科目の目標	(1) 生物基礎で学んだ体系化された知識に基づき、自然の事物・現象を分析的・総合的に考察する能力を高める。 (2) 日常生活や社会との関連の深い生物現象を論理的に論述する力を養うことで、言語活動の充実を図る。		
履修学年	3年	類型	文型
単位数	3単位	履修形態	必修
教科書	第一学習社「高等学校生物基礎」(生基710)	副教材等	ビーライン 生物基礎(第一学習社) 新課程スクエア最新図説生物(第一学習社)

①学習の目標

- (1) 自然の事物・現象を物質の反応として理解し、生化学の視点から考察できるようにする。
- (2) 生物基礎の各分野について、実験や観察を通して結果を分析、探究し、思考できるようにする。
- (3) 生物や生命現象を論理的に論述する力を養う。

②学習内容と授業の進め方

上記目標のとおり、問題演習とその解説を中心に授業を行う。各分野ごとに学習した内容を確認する。

③学習に当たっての留意点

- (1) 授業時間内では、演習する時間が十分に取ることができないので、家庭学習で取り組むこと。
- (2) 図説(資料)を効果的に活用すること。

④評価の観点

- (1) 知識・技能

生物基礎との関連を重視しながら、生物や生命現象についての原理・法則を系統的に理解し、知識を身に付けている。
- (2) 思考・判断・表現

科学的な思考力・判断力を用いて、生物と遺伝子、生物の体内環境、生物の多様性について論理的に考察できる。
生物実験や観察などの適切な活用を通して、生物や生命現象の基本的概念を分析する方法を身に付け、それらの過程や結果を的確に表現できる。
- (3) 主体的に学習に取り組む態度

日常生活や社会に果たしている生物学の役割に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。

⑤評価の方法

定期考査の結果、授業や実験に取り組む姿勢・態度、実験レポートの内容などにより、総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法(観点項目を記入)
4	生物の特徴	生物の特性 細胞とエネルギー 遺伝現象と遺伝子	「生物基礎」で学習した内容に基づき、遺伝子分野などの発展項目を考察、思考することができる【知】【思】【主】。前期中間考査、提出レポート
5			
6	遺伝子と そのはたらき	体内環境と恒常性 生体防御 自律神経とホルモン	「生物基礎」で学習した内容に基づき、恒常性分野などの発展項目を考察、思考することができる【知】【思】【主】。前期末考査、提出レポート
7			
8	生物の体内環境 の維持	体内環境 体内環境を維持するしくみ 免疫	「生物基礎」で学習した内容に基づき、免疫などの発展項目を考察、思考することができる【知】【思】【主】。後期中間考査、提出レポート
9			
10			
11	生物の多様性と 生態系	植生の多様性と遷移 バイオームとその分布 生態系とその保全	「生物基礎」で学習した内容に基づき、生態系分野などの発展項目を考察、思考することができる【知】【思】【主】。小テスト、提出レポート
12			
1			

令和 6 年度（2024年度） シラバス

教科	理科	科目	生物	3学年	選択	1単位
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	高等学校 生物 (第一学習社／生物705)		副教材	新課程 リードα 生物(数研出版) 新課程 スクエア最新図説生物(第一学習社)		
準備物	教科書・ノート・図説・問題集・授業プリント用ファイル					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【分析力】 【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	50%	30%	20%
A	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を十分に身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が十分に身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を十分に身に付けている。
評点	42～50	26～30	17～20
B	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を身に付けている。
評点	16～42	10～25	7～16
C	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が不十分である。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が不十分である。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度が不十分である。
評点	～15	～9	～6
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント	実験レポート 授業プリント

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	4 編 生物の環境応答	動物の反応と行動
5		
6		
	前期中間考查	
7	5 編 生態と環境	植物の成長と環境応答
8		
9		
	前期期末考查	
10		生態系の物質生産と消費
11		
	後期中間考查	
12	総合演習	
1		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ① 授業中は、自分が今何を学んでいるのかを意識しつつ、それらを理解するために熱心に考えましょう。
- ② 教科書に書かれている文章の意味を正確に理解するため、丁寧に読みましょう。
- ③ 教科書や問題集に出ている重要用語について、文章で説明できるようにしましょう。
- ④ 生物現象を深く理解するために、グラフや表を用いて比較したり、関連づけたりできるようにしましょう。
- ⑤ 必要に応じて、先生や友達と学習内容について対話して、理解を深めましょう。
- ⑥ 観察や実験を行うときは、どのような結果になるかを予想したり、仮説を立てたりしながら進めましょう。
- ⑦ より深い理解のために、インターネットや図説を効果的に利用しましょう。
- ⑧ 適宜、学習内容を振り返って次の学びにつなげましょう。
- ⑨ 大学入試などの良問に取り組むことも、そのテーマの先達との対話であり、深い理解につながります。

令和6年度 シラバス

教科	理科	科目	発展化学	3学年	必修	2単位
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。					
教科書	化学 (数研出版)		副教材	新課程二訂版 スクエア最新図説化学 (第一学習社) 新課程 リードα 化学基礎+化学 (数研出版)		
準備物	教科書・ノート・スクエア最新図説化学					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	40%	40%	20%
A	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を十分に身に付けている。実験に関する技能を十分に習得している。実験データの収集し、分析・考察など化学的に探究することが十分にできる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが十分にできる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が十分に養われている。
評点	33～40	33～40	17～20
B	物質に関する原理・法則を理解し、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方を身につけている。実験に関する基本的な技能を習得している。実験データを収集し、分析・考察など化学的に探究することができる。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することができる。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が養われている。
評点	17～32	17～32	9～16
C	物質に関する原理・法則の理解や、物質の構成や物質の変化に関する見方や考え方が不十分である。実験に関する基本的な技能の習得が不十分である。実験データを収集にとどまり、化学的な探究が不十分である。	化学的な事物・現象を、物質の関する原理・法則をもとに論理的に考察し、適切な用語を用いて的確に表現することが不十分である。	物質とその変化について日常生活や社会との関連を図りながら考察しようとする態度および、実験において主体的に観察し、分析しようとする態度が不十分である。
評点	～16	～16	～8
評価方法	定期考査・実験レポート・小テスト	定期考査・実験レポート・小テスト	実験レポート・提出物 授業の感想等

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4月	第2編 物質の変化 第4章 化学平衡	緩衝液，溶解度積
	第4編 有機化合物	
	第1章 有機化合物の分類と分析	特徴と分類，構造の決定
5月	第2章 脂肪族炭化水素	飽和炭化水素，不飽和炭化水素
	第3章 酸素を含む脂肪族化合物	アルコールとエーテル，アルデヒドとケトン，カルボン酸とエステル，油脂とセッケン
	第4章 芳香族化合物	芳香族炭化水素，酸素を含む芳香族化合物，窒素を含む芳香族化合物，有機化合物の分離
6月	中間考査	
	第3編 無機物質	
	第1章 非金属元素	元素の分類と性質，水素，貴ガス，ハロゲン，酸素・硫黄，窒素・リン，炭素・ケイ素
7月	第2章 金属元素（Ⅰ）-典型元素-	アルカリ金属元素，2族元素，アルミニウム，スズ・鉛
8月	第3章 金属元素（Ⅱ）-遷移元素-	鉄，銅，銀・金，亜鉛，クロム・マンガン，その他の遷移金属，金属イオンの分離
9月	期末考査	
	第5編 高分子化合物	
	第1章 高分子化合物の性質	高分子化合物の特徴（構造・性質）
10月	第2章 天然高分子化合物	糖類，アミノ酸・タンパク質，核酸
	第3章 合成高分子化合物	合成繊維，合成樹脂，ゴム
11月	中間考査	
	演習	大学入学共通テストに向けた演習
12月	演習	大学入試問題の演習
1月	演習	大学入試問題の演習

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ・夏期講習で有機化合物の演習を行うため，順序を入れ替え，第4編 有機化合物を先に学習する。
- ・第4編 有機化合物は，生徒実験や演示実験を通じて，化合物の特徴を確認しながら進める。
有機化合物は，構造による性質の違い（異性体や官能基），各種反応を系統的に学習すると良い。
- ・第3編 無機物質は，生徒実験・演示実験を多く取り入れ，現象・変化を確認しながら進める。
無機物質における反応は，2年次に学習した酸と塩基，酸化還元反応を中心としています。
2年生までの学習をしっかりと復習してから臨みましょう。水溶液や沈殿の色など覚えることも多いです。
- ・第5編 高分子化合物は，主に有機化合物の内容を踏まえながら学習します。
有機化合物の特有の反応なども登場するため，3年生前半の内容をしっかりと押さえる必要があります。
- ・3年生の化学は，覚えることが多く，多々単純に覚えれば良い，というものでもありません。
授業それぞれでしっかりと復習をして，次の授業に臨んでください。

令和 6 年度（2024年度） シラバス

教科	理科	科目	探究生物	3学年	選択	2単位
科目の目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	高等学校 生物 (第一学習社／生物705)		副教材	新課程 リードα生物(数研出版) 新課程 スクエア最新図説生物(第一学習社)		
準備物	教科書・ノート・図説・問題集・授業プリント用ファイル					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】	【分析力】 【思考力】 【表現力】	【探究力】 【行動力】
割合	50%	30%	20%
A	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を十分に身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が十分に身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を十分に身に付けている。
評点	42～50	26～30	17～20
B	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が身に付いている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度を身に付けている。
評点	16～42	10～25	7～16
C	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が不十分である。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力と、実験データから考察を導き出し、文章やグラフ、表などで表現する力が不十分である。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境保全に寄与する態度が不十分である。
評点	～15	～9	～6
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 授業プリント	実験レポート 授業プリント

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	4 編 生物の環境応答	動物の反応と行動
5		
6		
	前期中間考查	
7	5 編 生態と環境	植物の成長と環境応答
8		
9		
	前期期末考查	
10		生態系の物質生産と消費
11		
	後期中間考查	
12	総合演習	
1		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- ① 授業中は、自分が今何を学んでいるのかを意識しつつ、それらを理解するために熱心に考えましょう。
- ② 教科書に書かれている文章の意味を正確に理解するため、丁寧に読みましょう。
- ③ 教科書や問題集に出ている重要用語について、文章で説明できるようにしましょう。
- ④ 生物現象を深く理解するために、グラフや表を用いて比較したり、関連づけたりできるようにしましょう。
- ⑤ 必要に応じて、先生や友達と学習内容について対話して、理解を深めましょう。
- ⑥ 観察や実験を行うときは、どのような結果になるかを予想したり、仮説を立てたりしながら進めましょう。
- ⑦ より深い理解のために、インターネットや図説を効果的に利用しましょう。
- ⑧ 適宜、学習内容を振り返って次の学びにつなげましょう。
- ⑨ 大学入試などの良問に取り組むことも、そのテーマの先達との対話であり、深い理解につながります。

令和6年度（2024年度） シラバス（発展物理）

教科	理科	科目	発展物理	3学年	必修	2単位
科目の目標	物理的な事物・現象について観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。					
教科書	物理 (東京書籍)		副教材	セミナー物理 (第一学習社)		
準備物	授業プリント					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【探求力】 【行動力】
割合	20%	40%	30%	10%
A	複雑な物理現象をの本質をつかみ、背景に隠れた物理法則を正確に認識し正しく適用できる。	複雑な物理現象の本質をつかみ、適切な物理法則により正しく立式し結論を導くことができる。別解を考え、他者へ提案できる。	複雑な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。物理公式を、根拠を示しながら正確に簡潔に導出できる。	実験、観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察ができ、新たな課題を設定することができる。主体的に問題演習に取り組み、分析力、思考力、表現力を高める努力ができる。
評点	17～20	34～40	25～30	8～10
B	日常生活の経験から身についた誤った自然観（誤概念）を解消し物理現象を客観的に理解し、単純な問題に対しては、正しく物理法則を適用できる。	単純な物理現象を客観的に思考し、適切な物理法則を当てはめ、正しく演算し結論を導くことができる。	単純な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。物理公式を、根拠を示しながら概ね正しく導出できる。	実験観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察することができる。主体的に問題演習に取り組み、正しい知識の定着を図る努力ができる。
評点	9～16	18～33	13～24	5～8
C	物理現象を主観的にしか理解せず、誤概念を持った状態に留まっているため正しく物理法則を適用できない。	物理現象を誤概念を持った状態で主観的に考えるため、正しい結論を導くことができない。	物理現象について、曖昧な根拠をもとに結論や結果のみを形式的に覚え再現する段階に留まっている。物理公式の多くを導出できない。	実験観察において、定量的または定性的に正しく考察することができない。正しい知識の定着を図るために主体的に努力することができない。
評点	～8	～17	～12	～4
評価方法	定期考查	定期考查	定期考查 提出物（課題）	定期考查 提出物（課題）

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	2編 波 3章 光	
	くさび型空気層・ニュートンリング	
	第5章 気体分子の運動	
	1節 気体の性質	
5	2節 気体分子の運動と状態方程式	
	3節 熱力学第1法則と気体の状態変化	
	4節 熱力学第2法則と熱機関	
	第3部 電気と磁気 1章 電場と電位	
	1節 静電気	
6	前期中間考査	
	2節 電場	
	3節 電位	
	4節 電場の中の物体	
7	5節 コンデンサー	
8	2章 電場と電位	
	1節 電流	
	2節 直流回路	
9	前期期末考査	
	3章 電流と磁場	
	1節 磁場	
	2節 電流が作る磁場	
	3節 電流が磁場からける力（電磁力）	
	4節 ローレンツ力	
	4章 電磁誘導と電磁場	
	1節 電磁誘導	
11	2節 自己誘導と相互誘導	
	3節 交流	
	4節 電磁場	
	後期中間考査	
	第4部 原子 1章 電子と光	
	1節 電子	
	2節 光の粒子性	
	3節 X線	
	4節 波動性と粒子性	
	2章 原子と原子核	
	1節 原子の構造	
	2節 原子核	
	3節 原子核の崩壊	
	4節 核反応と核エネルギー	
	5節 素粒子	
12	入試問題演習	

令和6年度（2024年度） シラバス（物理）

教科	理科	科目	物理	3学年	必修	1単位
科目の目標	物理的な事物・現象について観察・実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。					
教科書	物理 (東京書籍)		副教材	セミナー物理 (第一学習社)		
準備物	授業プリント					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【探求力】 【行動力】
割合	20%	40%	30%	10%
A	複雑な物理現象をの本質をつかみ、背景に隠れた物理法則を正確に認識し正しく適用できる。	複雑な物理現象の本質をつかみ、適切な物理法則により正しく立式し結論を導くことができる。別解を考え、他者へ提案できる。	複雑な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。物理公式を、根拠を示しながら正確に簡潔に導出できる。	実験、観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察ができ、新たな課題を設定することができる。主体的に問題演習に取り組み、分析力、思考力、表現力を高める努力ができる。
評点	17～20	34～40	25～30	8～10
B	日常生活の経験から身についた誤った自然観（誤概念）を解消し物理現象を客観的に理解し、単純な問題に対しては、正しく物理法則を適用できる。	単純な物理現象を客観的に思考し、適切な物理法則を当てはめ、正しく演算し結論を導くことができる。	単純な物理現象を正しく図解し、立式することで各物理量の関係を正しくグラフ化できる。物理公式を、根拠を示しながら概ね正しく導出できる。	実験観察において、学習を通じて得た知識を活用して、定量的または定性的に正しく考察することができる。主体的に問題演習に取り組み、正しい知識の定着を図る努力ができる。
評点	9～16	18～33	13～24	5～8
C	物理現象を主観的にしか理解せず、誤概念を持った状態に留まっているため正しく物理法則を適用できない。	物理現象を誤概念を持った状態で主観的に考えるため、正しい結論を導くことができない。	物理現象について、曖昧な根拠をもとに結論や結果のみを形式的に覚え再現する段階に留まっている。物理公式の多くを導出できない。	実験観察において、定量的または定性的に正しく考察することができない。正しい知識の定着を図るために主体的に努力することができない。
評点	～8	～17	～12	～4
評価方法	定期考查	定期考查	定期考查 提出物（課題）	定期考查 提出物（課題）

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	2編 波 3章 光	
	くさび型空気層・ニュートンリング	
	第5章 気体分子の運動	
	1節 気体の性質	
5	2節 気体分子の運動と状態方程式	
	3節 熱力学第1法則と気体の状態変化	
	4節 熱力学第2法則と熱機関	
	第3部 電気と磁気 1章 電場と電位	
	1節 静電気	
6	前期中間考査	
	2節 電場	
	3節 電位	
	4節 電場の中の物体	
7	5節 コンデンサー	
8	2章 電場と電位	
	1節 電流	
	2節 直流回路	
9	前期期末考査	
	3章 電流と磁場	
	1節 磁場	
	2節 電流が作る磁場	
	3節 電流が磁場からける力（電磁力）	
	4節 ローレンツ力	
	4章 電磁誘導と電磁場	
	1節 電磁誘導	
11	2節 自己誘導と相互誘導	
	3節 交流	
	4節 電磁場	
	後期中間考査	
	第4部 原子 1章 電子と光	
	1節 電子	
	2節 光の粒子性	
	3節 X線	
	4節 波動性と粒子性	
	2章 原子と原子核	
	1節 原子の構造	
	2節 原子核	
	3節 原子核の崩壊	
	4節 核反応と核エネルギー	
	5節 素粒子	
12	入試問題演習	

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	芸術科	科目	音楽Ⅱ	3 学年	選択	2 単位
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、これらを生かして自己のイメージを創意工夫し表現力を高める。					
教科書	音楽Ⅱ Tutti＋ (教育出版)		副教材	適宜プリント等配布・配信		
準備物	タブレット端末					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	創造的な音楽表現の知識・技能	音楽表現の構想と工夫	鑑賞の能力	音楽への関心・意欲・態度
旭東DP	【認知力】	【表現力】 【創造力】	【共感力】 【分析力】	【行動力】
割合	30%	20%	20%	30%
A	創造的に音楽表現するために、基礎的な知識を十分に身に付け、効果的な表現技能を十分に身に付けている。	音楽のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、自らの考えに基づいて構想し、表現を工夫することが十分できている。	日常生活の音楽の効能や、音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことが十分にできている。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが十分にできている。
評点	25・30	15・20	15・20	25・30
B	創造的に音楽表現するために、基礎的な知識を身に付け、効果的な表現技能を身に付けている。	音楽のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、自らの考えに基づいて構想し、表現を工夫している。	日常生活の音楽の効能や、音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことができている。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評点	15・20	10・15	10・15	15・20
C	創造的に音楽表現するために、基礎的な知識が身に付いておらず、効果的な表現技能が不十分である。	音楽のよさや美しさを感じ、感性を働かせながら、自らの考えに基づいて構想しておらず、表現を工夫することが不十分である。	日常生活の音楽の効能や、音楽の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考えておらず、音楽のよさや美しさを創造的に味わうことが不十分である。	音楽の創造的活動の喜びを味わい、音楽の伝統と文化に関心をもつてず、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組むことが不十分である。
評点	0・5・10	0・5	0・5	0・5・10
評価方法	実技試験・筆記試験 授業プリント	実技試験 授業プリント	自己評価プリント 授業プリント	授業取組みの姿勢 授業プリント 提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	題材名	具体的な学習内容
4	○ガイダンス・オリエンテーション	・授業の全体の流れや準備するもの等を確認する。 ・自身の研究内容について方針をまとめる。
5	○歌唱 「アヴェ・マリア」 ・グレゴリオ聖歌の「アヴェ・マリア」 ・歌曲の「アヴェ・マリア」 ・合唱曲の「アヴェ・マリア」	・個性豊かに歌唱表現や創意工夫するために、発声のエチュードや「アヴェ・マリア」を歌いながら技能を高めたり、色々な「アヴェマリア」を聴き比べながら音楽的な見方・考え方を働かせ、今後の学習を豊かに展開していくための力を高める。
6	○歌唱 イタリアの歌・フランスの歌 ・Core ngrato ・Piacer d’amor ・Les feuilles mortes ・Tout,tout pour ma cherie ○鑑賞 ・交響曲第40番ト短調K. 550 ・ピアノ協奏曲第1番ホ短調op. 11 ・交響詩「ローマの松」・「オリエント急行」	・イタリア語の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりによって生み出される表現上の校歌を理解し、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。 ・フランス語の言葉の特性とシャンソンやフレンチポップスにふさわしい歌い方との関わりによって生み出される表現上の効果を理解し、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。 ・交響曲の仕組みを探求する。 ・協奏曲の魅力を探求する。 ・オーケストラ・吹奏楽の魅力を味わう。
7	○楽典「音名、音程、音階、調号、関係調、和音、コードネーム」 ○創作表現 （実技試験）	・基礎的な楽譜の読み方や読譜について、音程、音階、調、和音の種類や特徴について学習し、音素材の特徴を表したいイメージと関わらせて理解し、個性豊かに創作表現を創意工夫する。
8	○歌唱 日本歌曲 ・四季の歌～さくらさくら・我は海の子・里の秋 ・たき火	・日本語の抑揚や間、語感、歌詞が旋律の流れやフレーズにどのように表され、曲想を生み出しているかに関心を持ち、個性豊かに歌唱表現を創意工夫する。
9	・風の子供 ・からたちの花 （実技試験）	
10	○鑑賞「日本の音風景を感じ取ろう」	・各国の伝統音楽と比較し、魅力を知る。
11	○器楽「リコーダー」 ・Down by the sally gardens ・カノン集 （実技試験）	・リコーダーの構成、運指、様々な表現形態による器楽表現の特徴を理解し、その特徴を生かした表現方法を工夫する。合奏では互いの音を聴き合い、曲想に合った音色や奏法を知り、演奏表現を工夫する。
12		
1	○創作演奏発表	・学習したことを生かし、演奏表現を創意工夫し、他者と関わりながら音楽活動を楽しむ。 ・単旋律ではないハーモニーの美しさを感じながら演奏する。 ・様々な音楽形態を創意工夫しながら協調性をもって互いに高め合う。 ・日常生活に密接した音楽を通じて、音楽を愛好し、親しむ心情をもって主体的に取り組む。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

（1）歌唱では、斉唱や独唱を行います。発声の違いや歌詞の意味、情景や心情などを理解し、自己のイメージを大切にしながら多様な歌唱表現につなげていきます。
（2）楽典では、基本的な読譜から音を理論的に捉えて音楽の構造の仕組みを学習します。学んだ知識を、音楽的效果や音楽表現に生かせるよう実際に音を出し、イメージしながら学習していきます。
（3）器楽では、リコーダーを学習します。リコーダーでは、奏法を確認しながら合奏を深めます。
（4）鑑賞では、曲の仕組みを知ることや日本や各国の伝統音楽を鑑賞します。それぞれの特徴を知り、文化的、歴史的背景を踏まえて鑑賞することでより一層理解を深めます。

※以上から、音楽の授業は、座学（楽典）、歌唱（斉唱・独唱）、器楽（リコーダー）、鑑賞の4本立てで行います。

令和 6 年度（2024年度） シラバス（政治経済）

教科	地理歴史科	科目	政治経済	3学年	選択	3単位
科目の目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
教科書	政治・経済(東京書籍)		副教材	2024最新図説政経(浜島書店) 入試対策問題集ステップアップ 公共、政治・経済(第一学習社)		
準備物	教科書1冊・副教材2冊・A4版ノートブック・タブレット端末					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【創造力】	【思考力】	【探究力】
割合	35%	35%	30%
A	現代日本の政治や経済に関する諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、収集した情報を活用して考える力を身に付けている。	民主政治の本質を基に、憲法と現代政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方、世界と日本の関係性について多面的・多角的に考察、構想し、適切に表現できている。	現代日本の統治機構について関心を持ち、抱える課題を解決しようという意欲をもって学習に臨もうとしており、現代政治の特徴と課題のひとつとしての行政の民主化について関心を持ち、抱える課題を解決しようという意欲をもって学習に臨もうとしている。
評点	28～35	28～35	24～30
B	現代日本の政治や経済に関する諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、収集した情報を活用して考える力を十分に身に付けられていない。	民主政治の本質を基に、憲法と現代政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方、世界と日本の関係性について多面的・多角的に考察、構想し、十分に表現できていない。	人間としてのあり方や生き方、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けており、自ら問いを立てようと試行錯誤している。
評点	14～27	14～27	12～23
C	現代日本の政治に関する諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、収集した情報を活用して考える力が不十分である。	民主政治の本質を基に、憲法と現代政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方、世界と日本の関係性について多面的・多角的に考察、構想し、適切に表現できていない。	人間としてのあり方や生き方、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が不十分であり、自ら問いを立てることができない。
評点	～13	～13	～11
評価方法	定期考査・単元小テスト	定期考査・単元小テスト	取組状況 レポート

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	民主政治の成立、法と民主政治、基本的人権の確立	主権国家、社会契約説、三権分立、法、人権宣言
	現代の民主政治、世界のおもな政治体制	直接民主制、多数者の専制、議院内閣制
	日本国憲法の制定と基本原理、基本的人権の保障	基本的人権、明治憲法、差別問題、政教分離の原則
5	平和主義、国会と立法、内閣と行政	専守防衛、PKO協力法、国会の権限、解散
	裁判所と司法、地方自治、戦後政治と政党、選挙と政治意識	司法権の独立、裁判員裁判、直接請求権、55年体制
	世論と政治参加、経済活動の意義、資本主義経済の発展と変容	世論操作、資本主義経済、自由競争、ケインズ
6	経済主体と経済の循環、生産の仕組みと企業	経済主体、市場占有率、内部留保
	※各節ごとに問い&解シート提出	【態】 前期中間考査【知】【思】
	市場経済の機能と限界、国民所得と経済成長	
7	金融のしくみと機能、ライフプランの金融	
	財政のしくみと機能、戦後日本経済の発展	
	日本経済の現状、公害と環境保全、農業食料問題	
8	中小企業の現状と問題、情報化の進展と社会の変化	
	消費者問題、雇用と労働問題、社会保障と福祉	
	地域社会の活性化、日本の財政の健全化	
9	※各節ごとに問い&解シート提出	【態】 前期期末考査【知】【思】
	国際政治と特質、国際社会と国際法	
	国際連合の役割と課題、戦後国際関係の展開と日本	
10	冷戦後の国際関係と日本、地域主義の動き	
	軍縮の動向と課題、紛争・難民・テロリズム	
	国際社会における日本の役割、貿易と国際収支	
11	戦後国際経済体制の展開、発展途上国の経済	
	グローバル化する世界経済、地球環境問題	
	資源・エネルギー問題、人口・貧困・感染症	
12	※各節ごとに問い&解シート提出	【態】 後期中間考査【知】【思】
	演習・テーマ別討論	
1		
2		
3		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

教科書の単元に沿って、プリントや副教材で補足していきます。授業で設定された問いに対して、ペアワークなどを取り入れ、自分の考えを表現したり、他者の意見を取り入れたりします。また、単元ごとに、既習した内容の中から、自らが考えた問いをレポートで表現します。

留意点としては、大学入試共通テスト「倫理」受験に対応するために、単なる用語や事項の暗記では不十分と考えられます。先人たちの見方や考え方といった視点の適切な認知を基礎に、多様化・複雑化する現代社会の中で確立した個の視点を身につけ、先人たちの生きた社会・時代背景について多角的・多面的に探究することも大切です。「どのような状況で、何を目的に、どのような視点を持ったのか」という観点から「物事の本質を見る態度を身につける」訓練をしていきましょう。そのため、日頃から、倫理の教科書やプリントだけではなく、時事的問題・課題、多様なジャンルの書物等に触れ、多様なものの見方や考え方を知る機会を増やしていくと良いでしょう。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	保健体育	科目	体育	3学年	必修	2単位
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	なし		副教材	なし		
準備物	本校指定ジャージ(ハーフパンツ含む)とTシャツ・外運動靴・水泳用具・スキー用具・柔道着(男子のみ)					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【表現力】	【分析力】 【表現力】	【行動力】 【共感力】
割合	40%	30%	30%
A	運動の多様性や体力の必要性について知識・理論と技能が十分に身についている。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて分析することが十分にできている。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが十分にできている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動する態度が十分に身についている。
評点	31～40	24～30	24～30
B	運動の多様性や体力の必要性について知識・理論と技能が身についている。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて分析することができている。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動する態度が身についている。
評点	11～30	13～23	13～23
C	運動の多様性や体力の必要性について、身につけるべき知識・理論と技能が不十分である。	運動課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けての分析が不十分である。 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることが不十分である。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にする、安全を確保して行動するなど身につけるべき態度が不十分である。
評点	5～10	5～12	5～12
評価方法	授業時の行動観察 技能テスト	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容	授業時の行動観察 提出・記録物の記述内容

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	男女：体づくり運動	新体力テストを実施する。
	男女：体育理論	運動の取り組み方を学ぶ。
5	男子：球技（ソフトボールorサッカー）	サッカー：状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
6	女子：球技（ソフトボール）	ソフト：状況に応じたバット操作と走塁で攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備によって攻防をする。
	男女：球技（バスケットボール）	状況に応じたボール操作と空間を埋める等の動きによって、空間への侵入などから攻防をする。
7	男女：水泳（クロールまたは平泳ぎ）	手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり、速く泳いだりする。
8	男女：球技（バレーボール）	状況に応じたボール操作と他者との連携によって空間を作り出すなどの攻防をする。
9	男女：陸上競技（長距離走）	自分の体力に応じて、ペースの変化に対応しながら走る。
10	男女：選択（卓球orサッカーorソフトボール）	体力の向上を図るための計画的な運動計画を立てて取り組む。
	男女：球技（バレーボール）	状況に応じたボール操作と他者との連携によって空間を作り出すなどの攻防をする。
11 12	男女：体づくり運動（種目選択）	体力の向上を図るための計画的な運動計画を立てて取り組む。

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1)「礼に始まり、礼に終わる」。円滑に人と関わり合うために、必要不可欠な行動様式である。毎回の授業で始まりと終わりの礼についても真剣な態度で臨もう。
- (2)ともに活動する仲間を大切にすること。そのためには、一人一人の違いを認めて、前向きで思いやりのある発言や行動を意識しよう。
- (3)各単元での到達状況を測るために技能テストを行うが、技能向上ためには基本的知識の習得と正しい思考と判断に基づく反復練習が欠かせない。ゆえに自己の能力に応じて、積極的に知識量と運動量を増やすよう心掛けよう。
- (4)持続的な体力の維持・向上のために毎時実施している、体操と補強運動（プッシュアップとシットアップ）に必ず取り組もう。
- (5)主体的に運動することを強く勧める。体育の授業以外で運動に取り組む時間を確保するように努めること。継続的な運動習慣を身につけることが、心身の調和がとれた健康的な生活を送るための第一歩です。
- (6)体育の授業を通して身に付けることは運動に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できる。それを意識して高校の授業に臨もう。

令和6年度（2024年度） シラバス（地理探究）

教科	地理歴史科	科目	地理探究	3学年	選択	3単位
科目の目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。					
教科書	地理探究(二宮書店) 新詳高等地図(帝国書院)		副教材	地理統計要覧2023年版(二宮書店) 新編地理資料2023(東京法令出版) 地理探究ワークブック(二宮書店)		
準備物	教科書2冊・副教材2冊・プリントファイル・タブレット端末					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【創造力】	【思考力】	【探究力】
割合	33.33%	33.33%	33.33%
A	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題を理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、自ずと様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を十分に身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互関連を、諸観点に着目し、系統地理的、地誌的に、概念等を活用して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を十分に身に付け、自ずと捉えた内容を具体と抽象を往還して考えることができる。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を十分に身に付けており、自ずと問いを立て、自ずと解決への道筋を立てている。
評点	28～33	28～33	28～33
B	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題を客観的に捉えようとしており、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようと試行錯誤している。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互関連を、諸観点に着目し、系統地理的、地誌的に、概念等を活用して、多面的・多角的に考察しようとしており、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けようと試行錯誤している。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けており、自ら問いを立てようと試行錯誤している。
評点	15～27	15～27	15～27
C	地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題を主観で捉えるにとどまっており、地図や地理情報システムなどを用いて、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能も不十分である。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互関連を、諸観点に着目し、系統地理的、地誌的に、概念等を活用したり、多面的・多角的な考察をすることが主観にとどまっており、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力も不十分である。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が不十分であり、問いも他者から与えられることにとどまっている。
評点	～14	～14	～14
評価方法	定期考査	定期考査	取組状況 小レポート等

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	現代世界の系統地理的考察 －自然環境、資源と産業 人・モノ・金のつながり	地形や気候に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解する
5	現代世界の系統地理的考察 －資源と産業	諸産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解し、関連する主題を設定して多面的・多角的に考察し、表現する
6	小レポート提出[態]	
	前期中間考查[知][思]	
7	現代世界の系統地理的考察 －人口、村落・都市	人口、村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、諸問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解し、関連する主題を設定して多面的・多角的に考察し、表現する
8	現代世界の系統地理的考察 －文化と国家	生活文化と言語・宗教、国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や諸問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解し、関連する主題を設定して多面的・多角的に考察し、表現する
9	小レポート提出[態]	
	前期期末考查[知][思]	
10	現代世界の地誌的考察 －地域区分、現代世界の諸地域	世界の諸地域について、自然や文化、歴史的背景や経済、産業、人口、民族、都市問題といった項目を整理しながら基本的な知識を習得し、それらを異なる主題と関連付けながら地域的特色を考察・理解し、探究する
11		
		小レポート提出[態]
12	後期中間考查[知][思]	
	現代世界におけるこれからの日本の国土像 －現代日本に求められる国土像	今までの学習を基にして、将来の日本の国土像について、日本がかかえる地理的な課題を自ら発見し、その課題を多面的・多角的に考察、探究する

3 学習方法（どうやって学ぶか）

地理は現代世界のあらゆる事象と関連しており、身近な地域について見つめてみたり、世界や日本の異なる地域を比較したりするなど、空間軸を多様に動かす力も求められます。決して個別・詳細な知識を数多く記憶する「マニア」を目指すことと捉えず、それぞれの国・地域はどのような特色を持っていると考えられるのか、それが他の地域とどのような違いがあり、多様性が尊重されているのかを考察し、自分自身の言葉で明確に表現することが大切です。

そのためには、学んだことを頭に叩き込もうとするのではなく、じっくり考える余裕を持つことがとても大切です。ぜひ日頃からニュースに目を向け、どんな社会的事象に対しても興味を持ち、「なぜ？」と思う気持ちを大事にして、意欲的に取り組んでください。

授業では、地図や統計などの諸資料を活用しながら、上記の目標・内容に則して講義や演習を行います。ワークシートや資料等がありますので、まとめ方は個々に任せますが、その都度ファイルに入れるなどして復習しやすいようにしてください。テーマごとに「問い&解」レポートの提出も求めます。今年も「問い」を自分で立てることにチャレンジしてみましょう。

世界史探究	単位数	3 単位
	学科・学年・学級	全日制普通科 第3 学年 1・2 組（選択）
使用教科書、副教材等	東京書籍「世界史探究」（世探 701）、 「要点マスター世界史探究 整理と演習」（東京書籍） 「歴史総合・世界史探求 大学入学共通テスト問題集」（実況出版）	

1 学習の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

4		5 大交易時代の世界	○大交易時代に、なぜオランダが最も有力な交易勢力の一つになったのかについて理解する。	○大交易時代に、なぜオランダが最も有力な交易勢力の一つになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○大交易時代のヨーロッパ社会と世界の一体化についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	第12章 ユーラシア諸帝国の繁栄		○16 世紀から 18 世紀にかけて、アジア諸地域に成立した諸帝国が比較的安定した社会を維持できたのはなぜか、また経済的繁栄はどのようなもたらされたのかなどについて理解す	

			る。	
		1 中央アジアと西アジアの繁栄	○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について理解する。	○ティムール朝、サファヴィー朝、オスマン帝国の相違点と共通点について、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 インドの大国——ムガル帝国	○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて理解する。	○ムガル帝国の繁栄は、世界の諸地域の動きとどのように関連していたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 清と東アジア	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて理解する。	○清はなぜ多様な文化や宗教を有する人々を、長期にわたり統治することができたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○16 世紀から 18 世紀にかけてのアジアの諸帝国についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		●17 世紀の世界	○大交易時代を終わらせた世界の変化とはどのようなものだったのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、17 世紀の世界を概観する。
	第 13 章 主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大		○16 世紀から 17 世紀にかけてヨーロッパにあらわれた新しい国家には、どのような特徴があったのか、また、その形成にはどのような要因が働いていたのかなどについて理解する。	

		1 主権国家群の形成と宗教改革	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかかわりがあったのかについて理解する。	○近世の主権国家はどのような特徴をもっているのか、また国家の形成と宗教にはどのようなかかわりがあったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		■資料で深める歴史の世界 宗教改革はどのように人々に受けとめられたのだろうか	○二つの木版画を読み取り、ルターや宗教改革に対する人々の受けとめかたを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
		2 オランダの繁栄と英仏の国家形成	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について理解する。	○オランダの繁栄と英仏の国家建設の関係、三十年戦争がヨーロッパとドイツに与えた影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○主権国家体制の形成についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		3 商業覇権と植民地建設	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○ヨーロッパ諸国の貿易と植民地建設は、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカ大陸にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

		4 啓蒙専制国家の発展	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて理解する。	○英仏に追いつこうとした新興国ではどのような改革が行われたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		5 近世ヨーロッパの社会と文化	○自然科学、哲学、芸術などの分野でどのような新しい思想が生まれたのかについて理解する。	○自然科学、哲学、芸術などの分野でどのような新しい思想が生まれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○地球規模での交易の拡大についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	第3編 一体化していく世界	一体化していく世界への問い	○人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現する。	○人々の国際的な移動、自由貿易の広がり、マスメディアの発達、国際規範の変容、科学・技術の発達、文化・思想の展開などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。

	第 14 章 国民国家 と近代社会の形成		○18 世紀半ばから 19 世紀半ばにかけて、欧米で産業革命や、国民が政治の主体となる国家を建設しようとする動きが広がったのはなぜか、また、このような変革は、現代までどのような影響を与えているのかについて理解する。	
	1 産業革命と工業化	○イギリスで産業革命が始まった原因について理解する。	○イギリスで産業革命が始まった原因について、多面的・多角的に考察し、表現する。	
	2 アメリカ合衆国とラテンアメリカ諸国の独立	○北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて理解する。	○北アメリカの政治変革によって、どのような権利が獲得され、権利が認められなかったのはどのような人々だったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。	
	3 フランス革命とウィーン体制	○フランス革命の展開と他国への影響について理解する。	○フランス革命の展開と他国への影響について、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深める。	
	4 自由主義の台頭と新しい革命の波	○1848 年にヨーロッパ諸国でおこった出来事背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて理解する。	○1848 年にヨーロッパ諸国でおこった出来事背景と、それによって明らかになった課題はどのようなものだったのかについて、多面的・	

			る。	多角的に考察し、表現する。
		5 19 世紀後半のヨーロッパ諸国	○ヨーロッパ諸国における国民意識の高まりと覇権競争がどのような結果をもたらしたのかについて理解する。	○ヨーロッパ諸国における国民意識の高まりと覇権競争が、どのような結果をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		6 南北アメリカの発展	○南北戦争前後の時代のアメリカ各国の社会はどのような課題をかかえていたのかについて理解する。	○南北戦争前後の時代のアメリカ各国の社会は、どのような課題をかかえていたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○欧米での近代社会の形成についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	第 15 章 世界市場の形成とアジア諸国の変容		○産業革命で先行したイギリスが 19 世紀半ばに自由貿易体制を推進したのに対し、後発のヨーロッパ諸国はどのように対応したのか、また、ヨーロッパ発の工業化の波はアジア諸国に何をもたらしたのかについて理解する。	
		1 産業資本主義の世界への波及と欧米社会	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて理解する。	○「世界の工場」とよばれたイギリスの急速な工業化が、世界の結びつき方をどのようにかえたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

		2 西アジアの危機と改革のはじまり	○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて理解する。	○西アジア・北アフリカにおいて、ヨーロッパ諸国との関係の変化はどのような影響をもたらしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 南アジア・東南アジアの植民地化	○南アジアと東南アジアの各地で植民地支配が拡大した理由と、そのことが各地の社会にどのような影響を及ぼしたのかについて理解する。	○南アジアと東南アジアの各地で植民地支配が拡大した理由と、そのことが各地の社会にどのような影響を及ぼしたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 清における開発の限界と二つのアヘン戦争	○なぜイギリスは清と争ったのか、また、アヘン戦争でのイギリスの勝利は何を意味したのかについて理解する。	○なぜイギリスは清と争ったのか、また、アヘン戦争でのイギリスの勝利は何を意味したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○世界市場の形成とアジア諸国の変容についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	第16章 アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行		○アジア諸国が自国の危機をどのように認識し、欧米列強と対峙しながらいかに改革をすすめたのか、また、欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。	

	1 列強の覇権争い	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて理解する。	○なぜ19世紀後半にヨーロッパ列強がアフリカ内陸部を分割して支配するようになったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
	2 西アジア・中央アジアの変革	○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について理解する。	○列強に対して軍事的・経済的に劣勢に立たされた西アジアの諸国で生じた変革とその背景について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	3 南アジア・東南アジアの民族運動	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について理解する。	○南アジアと東南アジアの民族運動のそれぞれの特徴について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	4 清の体制転換と近代国家建設の模索	○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて理解する。	○経済成長の鈍化や外国の侵略などに、清がどのように対応したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○アジア・アフリカ諸国の統治再編と世界分割の進行についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	●19 世紀後半の世界	○19 世紀後半に人の移動が急速にすすんだのはなぜか、また、移民は移動先の社会にどのような変化をもたらしたのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、19 世紀後半の世界を概観する。

12月	第17章 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容		○第一次世界大戦は、なぜ「世界大戦」とよばれ、それまでの戦争とどのような点において異なるのか、そして、それぞれの地域において戦争の経験はどのような意味をもったのかなどについて理解する。	
		1 第一次世界大戦	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて理解する。	○開戦時点で短期戦が予想された大戦は、なぜ、どのように長期化したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編	○大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか、また、それはなぜなのかについて理解する。	○大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか、また、それはなぜなのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 大戦後のアメリカ合衆国とヨーロッパ	○戦間期アメリカに出現した大衆社会とはどのようなものであり、それはほかの諸国や政治のあり方にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○戦間期アメリカに出現した大衆社会とはどのようなものであり、それはほかの諸国や政治のあり方にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 アジア・アフリカでの国家形成の動き	○第一次世界大戦の結果は、アジア各地の独立運動や民族形成にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○第一次世界大戦の結果は、アジア各地の独立運動や民族形成にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第一次世界大戦の展開

				と諸地域の変容についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
1 月	第 18 章 国際協調体制の動揺と第二次世界大戦		○世界恐慌は、経済や政治をどのように変化させたのか、また、そのなかで台頭したファシズム国家によってひきおこされた第二次世界大戦の推移は、戦後の国際秩序の再編にどのような影響を与えたのかについて理解する。	
		1 世界恐慌と政治・経済の変容	○世界恐慌は、諸地域の経済体制、そして政治体制にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○世界恐慌は、諸地域の経済体制、そして政治体制にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 国際協調体制の動揺	○世界恐慌が与えた政治、経済の変化は国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて理解する。	○世界恐慌が与えた政治、経済の変化は国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○国際協調体制の動揺についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		3 第二次世界大戦の開戦と展開	○ヨーロッパではじまった戦争が、どのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて理解する。	○ヨーロッパではじまった戦争が、どのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

		■資料で深める歴史の世界 イギリスとフランスはなぜ宥和政策をとったのだろうか	○二つの風刺画を読み取り、イギリスとフランスの外交政策とその影響を理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
		4 戦後秩序構想と冷戦の形成	○大戦後半に国際秩序の再建はどのように構想され、それがどのように戦後米ソの対立を軸とする冷戦へと展開していったのかについて理解する。	○大戦後半に国際秩序の再建はどのように構想され、それがどのように戦後米ソの対立を軸とする冷戦へと展開していったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦と戦後秩序構想についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
		■資料で深める歴史の世界 ドイツの人々はナチスをどのようにとらえたのだろうか	○さまざまな立場から書かれた文字資料を読み取り、ドイツの人々がナチスをどのようにとらえたのかを理解する。	○諸資料を多面的・多角的に考察し、設定された課題を追究する。
1月	第19章 第二次世界大戦と戦後の東アジア		○第二次世界大戦中のアジアの戦後構想と実際のアジアの戦後は、どのような点が連続し、あるいは異なっていたのかについて理解する。	
	1 アジア・太平洋戦争と日本の敗戦		○第二次世界大戦終結への過程で、連合国はどのような戦後構想をいだき、それをどのように実現しようとしたのかについて理解する。	○第二次世界大戦終結への過程で、連合国はどのような戦後構想をいだき、それをどのように実現しようとしたのかについて、多面的・多

				角的に考察し、表現する。
		2 帝国の解体と分断国家の形成	○日本の敗戦後、「帝国」はいかに解体され、日本の植民地や占領地域はどのような状況に置かれたのかについて理解する。	○日本の敗戦後、「帝国」はいかに解体され、日本の植民地や占領地域はどのような状況に置かれたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 アジア諸国の独立と脱植民地化	○第二次世界大戦終結後、植民地支配はどのように再開され、また独立した国はどのような課題に直面したのかについて理解する。	○第二次世界大戦終結後、植民地支配はどのように再開され、また独立した国はどのような課題に直面したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		4 朝鮮戦争と東アジアの「冷戦」	○朝鮮戦争は東アジアにおける冷戦の形成とどのようにかわり、どのような特徴を残したのかについて理解する。	○朝鮮戦争は東アジアにおける冷戦の形成とどのようにかわり、どのような特徴を残したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○第二次世界大戦と戦後の東アジアについての自らの学習を振り返り、学びを深める。
2月	第4編 グローバル化と地球的課題		○国際機構の形成と平和への模索、経済のグローバル化と格差の是正、科学技術の高度化と知識基盤社会などに関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動を通して、地球世界の課題を読み解く観点につ	○国際機構の形成と平和への模索、経済のグローバル化と格差の是正、科学技術の高度化と知識基盤社会などに関する諸資料を活用し、問いを設定し、情報を読み取ったりまとめたりする。

			いて理解する。	
2 月	第 20 章 冷戦の世界化と国際制度		○冷戦のもとで、世界の平和はどのように模索されたのか、また、冷戦は世界に広がるなかで、それぞれの地域でどのような意味をもったのかについて理解する。	
		1 冷戦と政治・経済秩序	○冷戦下の世界では、政治、経済、安全保障の秩序はどのように構想されたのか、また、どのような均衡がみられたのかについて理解する。	○冷戦下の世界では、政治、経済、安全保障の秩序はどのように構想されたのか、また、どのような均衡がみられたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 アジア・アフリカ諸国の独立と第三勢力	○独立国となったアジア・アフリカ諸国はどのような課題に直面し、また、これらの国家の出現は国際社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○独立国となったアジア・アフリカ諸国はどのような課題に直面し、また、これらの国家の出現は国際社会にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 平和共存と社会主義圏の多極化	○冷戦下、東西のバランスはどのように推移し、また、多極化はどのように進展したのかについて理解する。	○冷戦下、東西のバランスはどのように推移し、また、多極化はどのように進展したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦の世界化と国際制度についての自らの学習を振り返り、学びを深める。

2 月	第 21 章 冷戦の変容・終結と経済のグローバル化		○冷戦の変容にともない、アメリカ合衆国の経済覇権はどのように動揺したのか、また、その後が生じた経済のグローバル化は何を契機におこり、世界経済をどのようにかえていったのかについて理解する。	
		1 アメリカ合衆国の覇権の動揺と冷戦の変容	○1970 年代にアメリカの覇権に動揺が生じた原因は何だろうか、また、それは米ソ関係や世界にどのような影響を与えたのかについて理解する。	○1970 年代にアメリカの覇権に動揺が生じた原因は何か、また、それは米ソ関係や世界にどのような影響を与えたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 冷戦の変容と世界の諸地域	○アジア、アフリカ、ラテンアメリカの各国や社会が、1970 年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて理解する。	○アジア、アフリカ、ラテンアメリカの各国や社会が、1970 年代の冷戦の変容に対してどのような選択をして対応したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 冷戦の終結とその後の世界	○冷戦は米ソ間やヨーロッパではどのように終結したのだろうか、また、ほかの各地域での冷戦は終結したのかについて理解する。	○冷戦は米ソ間やヨーロッパではどのように終結したのだろうか、また、ほかの各地域での冷戦は終結したのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。

		4 アメリカ合衆国の復調とグローバル化	○冷戦終結後、世界秩序はどのような方向に向かったのかについて理解する。	○冷戦終結後、世界秩序はどのような方向に向かったのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。 ○冷戦の変容・終結と経済のグローバル化についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	第22章 21世紀の地球的課題と人類社会		○21世紀に入り、地球上ではどのような問題が生じ、人類社会はどのような課題に直面し、それを克服しようとしているのかについて、これまでの歴史をふまえ、その課題に取り組む当事者として考える。	
		1 グローバル化にともなう世界の変容	○グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり、そうした課題はなぜ生みだされたのかについて理解する。	○グローバル化にともなって生じた課題にはどのようなものがあり、そうした課題はなぜ生みだされたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		2 地球的諸課題	○なぜグローバル化の進展にともなって解決がいつそう困難になった地球的諸課題があるのかについて理解する。	○なぜグローバル化の進展にともなって解決がいつそう困難になった地球的諸課題があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現する。
		3 新たな秩序変容	○グローバル化の進展によって生じた秩序の変容にはどのようなものがあるのかについて理解する。	○グローバル化の進展によって生じた秩序の変容にはどのようなものがあるのかについて、多面的・多角的に考察し、

				表現する。 ○21 世紀の地球的課題と人類社会についての自らの学習を振り返り、学びを深める。
	21 世紀の地球的課題と世界史		○世界史探究の学習を基に、持続可能な社会の実現を視野に入れ、主題を設定し、諸資料を活用し探究する活動を通して、地球世界の課題を理解する。	○地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連づけたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

3 評価の観点

知識・技能	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 ○諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。 ○国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

(1) 評価の時期と方法

ア 「知識・技能」について

評価の方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、生徒が文章による説明をしたり、諸資料から情報をまとめる技能を用いたりする場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れる。

イ 「思考・判断・表現」について

評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫する。教科書の各章、各単元冒頭の「問い」や、「深める」、また、「資料で深める歴史の世界」で設定されている課題などを有効に活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を適切に評価する。

ウ 「主体的に学習に取り組む態度」について

主体的に学習に取り組む態度の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価することではなく、知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習のすすめ方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価する。

エ 評価の時期

年間4回の定期考査において、知識の確認だけでなく、三つの観点にもとづいた評価ができるようにする。また、学期末や学年末などの事後での評価に終始することなく、学期の途中などでも各単元など「内容のまとめりと」に、思考力・判断力・表現力を確認するレポートやワークシートを作成させるなど、適切な学習評価を行うことで、生徒の学習意欲の向上につなげる。

(2) 評定について

定期考査と観点別学習状況の評価と評定の関係について十分留意した上で、総合的に判断する。

令和6年度（2024年度） シラバス

教科	地歴・公民	科目	日本史探究			
科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
教科書	詳説日本史(山川出版社)		副教材	図説日本史通覧(帝国書院) 4ステージ演習ノート日本史B(実教出版)		
準備物						

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目の評価観点	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
割合	40%	40%	20%
A	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能がきちんと身についている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることが確実にできる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。
評点	40～27	40～27	20～14
B	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。
評点	26～10	26～10	13～6
C	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。

	我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が不十分である。	問題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることがあまりできない。	対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができていない。
評点	9～	9～	5～
評価方法	定期考査	定期考査	課題作成・提出

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	第9章 幕藩体制の成立と展開	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。
5	第10章 幕藩体制の動揺	欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 前期中間考査
6	第11章 近世から近代へ	国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。
7	第12章 近代国家の成立	政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。 後期期末考査
8	第13章 近代国家の展開	第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。
9	第14章 近代の産業と生活	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。
10	第15章 恐慌と第二次世界大戦	日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。
11	第16章 占領下の日本	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにもなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 後期中間考査
12	第17章 高度成長の時代	独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。
12	第18章 激動する世界と日本	高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。

3 学習方法(どうやって学ぶか)

授業プリントを毎時間使用します。余裕があれば、授業前に教科書とプリントに目を通し、学習する時代や前回の流れの確認をしておいた方が効果的です。プリントはノートに貼り、授業中の板書、メモなどをプリントのとなりに記入して下さい。また、ワークは授業に持参する必要はありません。予習復習に活用して下さい。

令和5年度（2023年度）【文学シラバス】

教科	国語	科目	文学	3学年	選択	2単位
科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。					
教科書	文学国語 (数研出版)		副教材	完全マスター古典文法(第一学習社)・漢文精説(いっずな書店) 古文単語330(いっずな書店)・新訂総合国語便覧(第一学習社)		
準備物	教科書・ノート・完全マスター古典文法・漢文精説					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
			書く	読む	
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
割合	40%		20%	20%	20%
A	文学的な文章の特徴や言葉のきまりなどについて十分理解し、身につけている。		文章の構成や展開、表現の仕方などについて、十分に吟味して工夫している。	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方、考え方を十分に深めている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、文学的文章に対する関心を十分深めている、
評点	27～40		14～20	14～20	14～20
B	文学的な文章の特徴や言葉のきまりなどについて理解し、身につけている。		文章の構成や展開、表現の仕方などについて、工夫している。	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方、考え方を深めている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、文学的作品に対する関心を深めている、
評点	14～26		7～13	7～13	7～13
C	文学的な文章の特徴や言葉のきまりなどについて、理解が不十分である。		文章の構成や展開、表現の仕方など、不十分である。	作品の内容や解釈を踏まえ、感じ方、考え方が不十分である。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、文学的作品に対する関心を深めることが不十分である、
評点	～13		～6	～6	～6
評価方法	定期考査 単元別テスト		定期考査 提出物	定期考査 単元別テスト	授業の様子 提出物

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	無用の人 山椒魚	時系列に応じた読み方と文章から読み取れる情報を抽象的に文章化する方法を学ぶ。
5	ひよこの眼 野火	文章から寓意を読み取り、他者と考えを述べ合う。
前期中間考査		
6	赤い繭／鞆	小道具が何を示唆しているのかを考えながら読む。
7	野火	登場人物の心情と行動の関連性を考察し、説明する。
8	詩歌／永訣の朝	作者の心情を他の作品も踏まえて話し合う。
前期期末考査		
9	詩歌／短歌	短歌の鑑賞文を書く。
10	古典と現代語訳／源氏物語	原作と翻案作品を読み比べ、描写の違いを説明する。
11	大正の小説／探究の扉 現代日本の開化	小説と講演録からうかがえる「明治」という時代性を考察する。
後期中間考査		
12	文学的文章の創作／物語のおわり	作品中の物語の続きを創作する。
2	昭和初期の小説／探究の扉 忠直卿行状記	下敷きとした作品との関係性を踏まえて、両者の描かれ方の違いを探る。
3	詩歌／俳句	俳句を創作し、句会を開催する
後期期末考査		

3 学習方法（どうやって学ぶか）・目標

- ①文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。
- ②音読や朗読をして、文学的作品を理解する。
- ③文章の種類を踏まえて、内容や展開、描写の仕方などを的確に理解する。
- ④文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化について理解を深めること。
- ⑤文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。
- ⑥文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。

令和6年度（2024年度）【古典探究(文系) シラバス】

教科	国語	科目	古典探究	3学年	必修	2単位
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
教科書	古典探究 (数研出版)		副教材	完全マスター古典文法(第一学習社)・漢文精説(い い ず な 書店) 古文単語330(尚文出版)・新訂総合国語便覧(第一学習社)		
準備物	教科書・ノート・完全マスター古典文法・漢文精説					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
			読む		
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
割合	40%		40%		20%
A	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて十分理解し、身につけている。		文章を的確に読み取り、古典の世界観を理解した上で、自分の考えを深めることができる。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を十分深めている、
評点	30～40		30～40		16～20
B	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて理解し、身につけている。		文章を的確に読み取り、古典の世界観をある程度理解した上で、自分の考えをもつことができる。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めている、
評点	30～20		30～20		8～15
C	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて、理解が不十分である。		文章を的確に読み取り、古典の世界観を理解したり、自分の考えを深めたりすることが不十分である。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めることが不十分である、
評点	～19		～19		～7
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査 提出物		授業の様子 提出物

※定期考査について…評価の割合は知識・技能40%、思考・判断・表現60%(読む)を定期考査に反映させる

(定期考査の構成は知識・技能40点、思考・判断・表現60点(読む)で、その70～80%を評価に反映させる)

2 学習計画(いつ、何を学ぶか)

月	単元名	具体的な学習内容
4	【古文】和歌・随筆・日記文学	和歌についての基本的な考えを学ぶ。 様々なジャンルの文章を読み、その時代背景や考え方について学ぶ。
5	【漢文】逸話	これまで学んだ知識を活用しながら内容を捉え、作品の価値を考察する。
	前期中間考査	
6	【古文】物語・歴史物語	登場人物の心情を理解して、主旨を読み取る。 和歌の学びを活用し、読み味わう。
7	【漢文】小説・漢詩	中国の小説の特徴、言葉の使い方を学ぶ。文化の特質・関係を知る。 漢詩の知識を確認しつつ、内容をとらえる。
8	【古文】説話	筆者の鋭敏な観察眼に着目して読み取る。 古語と現代語の意味の違いを理解する。
	前期期末考査	
9	【古文】評論	当時人々の考えの内容を読み取ることで、日本文化の特質について考える。 内容を読み取り、自分の考えを深める。 当時の時代背景について理解する。
10	【漢文】史伝	
11	【古文】近世の随筆・小説	
	後期中間考査	
12 1	問題演習	これまで学んだ知識の活用方法や設問に対する解答方法を確認する。

3 学習方法(どうやって学ぶか)

- ①音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
 - ②文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。
 - ③文法事項では、文語のきまり、訓読のきまりを理解する。
 - ④口語訳を行い、文章の内容を正確に読み取る。
 - ⑤古典常識の知識を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえる。
 - ⑥文章に表れた人間、自然、社会などに対する思想や感情などの表現に即して読み味わう。
 - ⑦自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめる。
 - ⑧文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- ※特に今年度は④～⑧に力を入れる

数学科

教科名	数学	科目名	数学C
科目の目標	問題演習を通して、数学Ⅰ・Aで学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。		
履修学年	3年	類型	文型
単位数	2単位	履修形態	選択履修
教科書	数学Ⅰ・数学A(数研出版)	副教材等	キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C (数研出版)

①学習の目標

問題演習を通して数Ⅰ・Aの総復習を行い、実力を養成する。

②学習内容と授業の進め方

問題集で演習を行う。教材が基礎と応用に分かれているので基礎を一通り演習した後、応用の演習を行う。学習内容は以下の授業計画を参考にすること。ただし、内容の順序については実状に合わせて変更する場合もある。

③学習に当たっての留意点

1. 2年で学習した事項を単に復習するだけでなく、それを応用して種々の問題を解くこと。
2. 問題演習が中心となるが、毎日の予習、復習も大切であり、進路実現のためにも自学自習の姿勢を身につけること。

④評価の観点

- (1) 知識・技能 -1
【知識・技能】
 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 思考判断表現
【思考判断表現】
 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 学びに向かう人間性を養う
【学】 問題を仲間とともに協議しながら解答に向かう能力を養う。

⑤評価の方法

定期考査の結果、学習活動への参加の意欲・態度などで総合的に評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	第1章 数と式	1 式の計算 2 式の値 3 1次不等式 4 命題と集合	・数学Ⅰ・Aの問題演習を通して既習の知識を再確認し問題解決に活用できる。【知】 ・問題演習を通して数学的な事象を考察できる。【思】 ・様々な問題を通して的確に処理できる。【思】 ・演習を通して数学的な解法を身につけようとしている。【学】
5	第2章 2次関数	5 関数とグラフ 6 関数の最大と最小 7 2次方程式・2次不等式 8 2次関数のグラフとx軸の共有点	
6	第3章 図形と計量	9 三角比の基本 10 三角比と図形(1) 11 三角比と図形(2)	
7	第4章 データの分析	12 データの分析	
8	第5章 場合の数と確率	13 場合の数・順列	前期中間考査
9		14 組み合わせ 15 確率(1) 16 確率(2)	
10		17 図形の性質(1) 18 図形の性質(2)	
11	第7章 整数の性質	19 約数と倍数 20 不定方程式 21 整数の種々の問題	前期期末考査
12	センター演習	共通テスト対策問題集	
1	2次対策演習	2次対策問題演習	

令和6年度（2024年度） シラバス 【数学研究】

教科	数学科	科目	数学研究	2 学年	選択	2 単位
科目の 目標	問題演習を通して、数学Ⅱ・Bで学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。					
教科書	数学Ⅱ・数学B 数学C（数研出版）		副教材	キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C受験編 （数研出版）		
準備物	教科書 ・ 副教材 ・ ノート ・ タブレット					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	認知力・分析力	分析力・思考力・表現力・探究力	行動力
割合	35%	35%	30%
A	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に十分に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力を十分に身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分に身に付けている。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、十分に判断できる。 ・問題解決の過程を振り返って十分に評価・改善できる。
評点	26~35	26~35	18~30
B	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的にやや理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能をやや身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力をやや身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をやや身に付けている。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、やや判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返ってやや評価・改善しようとしている。
評点	11~25	11~25	11~17
C	・数学における基本的な概念や原理・法則などの理解が不十分である。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能が不十分である。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力が不十分である。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が不十分である。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、判断しようとしていない。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていない。
評点	0~10	0~10	0~10
評価方法	・ 定期考査	・ 定期考査	・ 課題等演習の取り組み状況

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	第10章図形と方程式	26. 点と直線
5	第14章数列	27. 曲線と直線 28. 軌跡と領域 39. 等差数列・等比数列 40. 種々の数列
6	前期中間考査 第16章ベクトル	41. 漸化式と数列 42. 数学的帰納法，数列の応用 44. ベクトル
7	第11章三角関数	45. ベクトルと平面図形 46. ベクトルと空間図形
8	前期期末考査 第13章微分法・積分法	29. 三角関数(1) 30. 三角関数(2) 33. 導関数と接線
9		34. 関数の値の変化 35. 微分法の応用 36. 不定積分・定積分 37. 面積(1) 38. 面積(2)
10	第12章指数関数・対数関数	31. 指数関数・対数関数(1) 32. 指数関数・対数関数(2)
11	第15章統計的な推測 第9章複素数と方程式	43. 統計的な推測 24. 複素数とその計算，2次方程式の理論 25. 剰余の定理・因数定理，高次方程式
12	後期中間考査 センター演習	共通テスト対策問題集
1	2次対策演習	2次対策問題演習

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1) 学習する内容を理解するだけでなく、学習する目的や必要性も意識すること。
- (2) 単に公式を暗記するのではなく、公式ができた理由やその活用の仕方から数学的な見方や考え方のよさを知ること。
- (3) 「なぜ」「どうして」という疑問をもちながら授業に参加すること。
- (4) 数学は積み重ねが大切な教科です。必ず予習をし、授業のあった日は必ず副教材で復習すること。この繰り返しが学力の向上につながります。

令和6年度（2024年度）【古典探究(理系) シラバス】

教科	国語	科目	古典探究	3学年	必修	2単位
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。					
教科書	古典探究 (数研出版)		副教材	完全マスター古典文法(第一学習社)・漢文精説(いづな書店) 古文単語330(尚文出版)・新訂総合国語便覧(第一学習社)		
準備物	教科書・ノート・完全マスター古典文法・漢文精説					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度
			読む		
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】			【行動力】 【共感力】
割合	40%		40%		20%
A	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて十分理解し、身につけている。		文章を的確に読み取り、古典の世界観を理解した上で、自分の考えを深めることができる。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を十分深めている、
評点	30～40		30～40		16～20
B	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて理解し、身につけている。		文章を的確に読み取り、古典の世界観をある程度理解した上で、自分の考えをもつことができる。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めている、
評点	30～20		30～20		8～15
C	伝統的な言語文化の特徴や言葉のきまりなどについて、理解が不十分である。		文章を的確に読み取り、古典の世界観を理解したり、自分の考えを深めたりすることが不十分である。		国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深めることが不十分である、
評点	～19		～19		～7
評価方法	定期考査 小テスト		定期考査 提出物		授業の様子 提出物・小テスト

※定期考査について…評価の割合は知識・技能40%、思考・判断・表現60%(読む)を定期考査に反映させる

(定期考査の構成は知識・技能40点、思考・判断・表現60点(読む)で、その70～80%を評価に反映させる)

2 学習計画(いつ、何を学ぶか)

月	単元名	具体的な学習内容
4	【古文】随筆・日記文学	様々なジャンルの文章を読み、その時代背景や考え方について学ぶ。
5	【漢文】逸話	これまで学んだ知識を活用しながら内容を捉え、作品の価値を考察する。
前期中間考査		
6	【古文】物語・歴史物語	登場人物の心情を理解して、主旨を読み取る。和歌の学びを活用し、読み味わう。
7	【漢文】小説・漢詩	中国の小説の特徴、言葉の使い方を学ぶ。文化の特質・関係を知る。漢詩の知識を確認しつつ、内容をとらえる。
8	【古文】説話	筆者の鋭敏な観察眼に着目して読み取る。古語と現代語の意味の違いを理解する。
前期期末考査		
9	【古文】評論	当時に人々の考えの内容を読み取ることで、日本文化の特質について考える。
10	【漢文】史伝	
11	【古文】近世の随筆・小説	江戸期の日本の文学や文化、思想について考える。
後期中間考査		
12	問題演習	これまで学んだ知識の活用方法や設問に対する解答方法を確認する。
1		

3 学習方法(どうやって学ぶか)

- ①音読を繰り返し、古文や漢文のリズムを体得する。
 - ②文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方を理解し、語彙を豊かにする。
 - ③文法事項では、文語のきまり、訓読のきまりを理解する。
 - ④口語訳を行い、文章の内容を正確に読み取る。
 - ⑤古典常識の知識を深め、文章の構成を確かめたり、表現の特色をとらえる。
 - ⑥文章に表れた人間、自然、社会などに対する思想や感情などの表現に即して読み味わう。
 - ⑦自ら読み取った思想や感情などについて、感じ、考えたことを文章にまとめる。
 - ⑧文章の背景に迫り、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考える。
- ※特に今年度は④～⑧に力を入れる

数学科

教科名	数学	科目名	数学ⅢC
科目の目標	知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を身につける。		
履修学年	3年	類型	理型・医進型
単位数	数学ⅢC6単位	履修形態	選択履修
教科書	数学ⅢC(数研出版)	副教材等	4STEP数学ⅢC(数研出版)

①学習の目標

- (1) 極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共に、それらを積極的に活用する態度を身につける。
- (2) 式と曲線について理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすと共にそれらを積極的に活用する態度を身につける。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 「式と曲線」では、二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式で表現できることを理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。
- (2) 「極限」では、微分法、積分法の基礎として極限の概念を理解し、それを数列や関数値の極限の考察に活用できるようにする。
- (3) 「微分法」では、色々な関数についての微分法を理解し、それを用いて関数値の増減やグラフの凹凸等を考察し、微分法の有用性を認識するとともに具体的な事象の考察に活用できるようにする。
- (4) 「積分法」では、いろいろな関数についての積分法を理解し、その有用性を認識するとともに、図形の求積等に活用できるようにする。

③学習に当たっての留意点

- (1) 一つの章・分野からの視点のみならず、1・2年次で学習した事項との関連性や他分野との融合に留意し問題解決に向け多面的な分析・処理ができるように意識すること。
- (2) 教科書以外の発展的な内容についても学習するが、数学Ⅲの分野については遅くとも9月中に終了する計画を立てて進める。
- (3) 授業は予習・復習を前提に行われるので、毎日家庭学習の時間を確保するとともに、進路実現を意識し自学自習の習慣を身につけること。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
【関】 高校数学の基礎的な知識を中心とした内容に関心を持ち様々な問題解決に積極的に活用することができる。
- (2) 数学的見方や考え方
【数】 数学的な見方や考え方を身につけ、具体的な事象を考察することができる。
- (3) 表現・処理
【表】 数学の法則などを用いて表現し、様々な計算を通して的確に処理できる。
- (4) 知識・理解
【知】 高校数学の基礎的な知識を身につけようとしている。

⑤評価の方法

定期考査、単元テスト、提出物の内容、学習活動への「関心・意欲・態度」、数学的な「見方・考え方」、「表現・処理」及び「知識・理解」の観点から総合的に評価する。

⑥授業計画			
月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4	数学C 第4章	式と曲線	
	1. 2次曲線	・曲線を表す方程式が $y=f(x)$ の形に変形できる場合にはその曲線を図で表すことができることを理解する。 ・放物線の幾何学的な定義から導いた方程式が既習の放物線の方程式と同じものであることを理解する。また、放物線の焦点・準線の性質について理解する。 ・楕円の定義に従って、その方程式の標準形を求める。 ・双曲線の定義に従って、その方程式の標準形を求める。また、x、yについての2次方程式で表される放物線、楕円、双曲線を総称して2次曲線ということを知る。 ・放物線、楕円、双曲線と直線との関係について理解する。 ・図形の平行移動と方程式の関係を理解し、2次曲線とその離心率の関係を理解する。	・二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式で表現できることに興味を持ち具体的な事象の考察に活用しようとする。 【関】 ・二次曲線の基本的な性質及び曲線がいろいろな式での表現方法を考察できる。 【数】 ・曲線をいろいろな式で表現したり描くことができる。また具体的な事象の考察に活用できる。 【表】
	2. 媒介変数表示と極座標	・極座標を導入し、これまでの2次曲線などを極座標を利用して表示できるようにする。 ・いろいろな曲線をかいて、直交座標や極座標についての理解を深める。	・媒介変数表示や極座標について理解し二次曲線の基本的な性質や、いろいろな式で曲線が表現できることを理解している。 【知】
5	数学Ⅲ 第1章	関数	
	1.分数関数 2.無理関数 3.逆関数と合成関数	・分数式の計算が自由に行えるようにする。また関数 $y=k/x$ のグラフをもとにして、関数 $y=\frac{ax+b}{cx+d}$ のグラフがかけられるようにし、この関数の特徴を理解する。 ・関数 $y=x^2 (x \geq 0)$ のグラフとの対比で、関数 $y=\sqrt{x}$ のグラフを考える。さらに $y=\sqrt{ax+b}$ のグラフがかけられるようにする。 ・グラフを利用して、分数式や無理式を含む簡単な方程式・不等式が解けるようにする。 ・合成関数 $y=g(f(x))$ の意味を理解する。 ・逆関数の意味を知り、簡単な関数の逆関数を求めたり、そのグラフがかけられるようになる。	・関数値と極限値の違いを理解する。級数において限りなく増大することが、どんな大きな数より大きくなることと手の違いを理解する。 【知】
	数学Ⅲ 第2章	極限	
	1.数列の極限	・無限数列 $\{a_n\}$ において、nが増加すると a_n がどのように変化するかを具体的な数列で考察し数列の収束、発散の意味を理解する。 ・数列の極限については、まず直感的に極限の四則を把握し、具体例を通してその求め方を理解する。また、極限値の大小関係にも注目する。さらに、無限等比数列の収束について詳しく考察する。 ・無限級数の和の意味を理解し、いくつかの無限級数の和を具体的に求める。次に、無限等比級数の和を考え、図形への応用問題、循環小数等の考察を通してその理解を深める。さらに、いろいろな無限級数の和について考察する。	・数列・級数の極限について関心を持ち、関数の極限についても関心を持つ。 【関】 ・数列の極限や級数の和を求めることができる。微分係数を用いて関数の極限を求めることができる。 【数】 ・数列、関数の極限(値)を求めたり、級数の収束・発散の判定をし、和を求めることができる。 【表】

6	2.関数の極限	・数学Ⅱで学んだ関数値の極限の概念を深化し、種々の関数値の極限が求められるようにする。また、$\lim_{\theta \rightarrow 0} \frac{\sin \theta}{\theta}$ について考える。 ・関数の連続性について考察し、それに基づく最大値・最小値の存在や中間値の定理を理解する。	
7	数学Ⅲ 第3章 微分法 1.微分係数と導関数 2.導関数の計算 3.いろいろな関数の導関数 4.高次導関数 5.関数のいろいろな表し方と導関数	・微分係数、導関数の定義、微分法の基本的な公式を確認する。 ・微分可能な2つの関数の積・商の導関数及びnが負のときのx^nの導関数を求められるようにする。 ・合成関数の導関数及びnが有理数のときのx^nの導関数さらに逆関数の導関数を求められるようにする。 ・x, yの方程式$f(x, y) = 0$で表された関数についてその導関数を求められるようにする。 ・三角関数の導関数を求められるようにする。 ・自然対数の底eを学び、対数関数の導関数を求められるようにする。 ・対数を利用した微分法を学ぶ。 ・指数関数の導関数及びnが実数のときのx^nの導関数を求められるようにする。 ・高次導関数を求められるようにする。	・微分法が関数の増加減少やグラフの凹凸の判断に利用できること、グラフを描くことに利用できることに関心を抱く。 【関】 ・導関数により関数の増加減少グラフの凹凸の考察ができる。また速度・加速度等についても考察できる。 【数】 ・いろいろな関数の導関数を求めその関数の増減表を調べ、グラフを描くことができる。微分係数を用いて極限値を求められる。 【表】
	数学Ⅲ 第4章 微分法の応用 1.導関数の応用	・微分の応用として、接線の方程式および法線の方程式を導けるようにする。 ・平均値の定理について、その意味を理解できるようにする。また、この定理にもとづいて関数に関する基本的な性質を証明し、関数の増減を調べられるようにする。 ・関数の値の変化を調べ、極値を求められるようにする。	・微分法とその自然科学への応用例を理解する。また関数の性質を調べるための知識を身に付けている。 【知】
8	2.速度と近似式	・曲線の凹凸に関する性質を知り、これまでに学んだことを総合してグラフの概形がかけられるようにする。 ・関数について、最大値、最小値を求められるようにする。 ・微分法を応用して、不等式を証明したり、方程式の実数解の個数を調べたりすることができるようにする。 ・曲線の媒介変数表示、および媒介変数で表された関数の微分法について学び、さらに運動する点の速度・加速度が導関数を用いて表現できるようにする。 ・1次近似式について学び、近似式が求められるようにする。	

9	数学Ⅲ 第5章 積分法		
	1.不定積分	・「数学Ⅱ」で学んだ積分の概念、積分法の基本的な公式を復習する。 ・第2章で学んだ累乗関数(xの実数乗)、三角指数・対数関数の導関数の公式を用いて、本的な関数の不定積分の公式を導く。 ・置換積分法、部分積分法を導入し、これらがこれらが 不定積分を求める有力な方法であることを理解し、これらを用いる能力を伸ばす。 ・分数式を部分分数に分解したり、三角関数を半角の公式や、積を和・差になおす公式を用いて変形することによって、分数関数や三角関数の不定積分を求める方法を理解する。 ・定積分や、積分と微分の関係について、数Ⅱで学んだ基本的な性質を再確認する。これまでの不定積分の公式や、置換積分法・部分積分法を用いて定積分を求める方法を学ぶ。 ・区分求積法の考え方による定積分の意味について理解させ、また、一般項が特殊な和の形をした数列の極限値を定積分の計算によって求める方法を習得させる。	・積分法に関心を持ち、既知の事柄との関わりについて理解しようとする。 【関】 ・積分によって、面積・体積の公式が導き出されることを数学的に考察することができる。 【数】 ・記号を用いて積分の計算処理ができ、面積・体積が求められる。 【表】 ・不定積分・定積分の概念や記号の意味を理解している。また具体的な事象を積分により解決するための基礎知識を身に付けている。 【知】
	2.定積分		
	数学Ⅲ 第6章 積分法の応用		
	面積、体積 曲線の長さ 速度と道のり	・「数学Ⅱ」で学んだ面積の計算を発展させ、簡単な整関数以外の関数のグラフや媒介変数表示の曲線で表される図形の面積を求める方法を学ぶ。 ・立体の体積や曲線の長さが定積分で求められる事を理解し、計算ができるようにする。	
10～		数学総合演習	

令和 6 年度（2024年度） シラバス 【数学C発展数学】

教科	数学科	科目	数学C数学研究	2 学年	選択	4 ・ 2 単位
科目の 目標	問題演習を通して、数学Ⅱ・Bで学習した基本事項を復習すると同時に、さらに発展させて応用的な問題を解く力を養成する。					
教科書	数学Ⅰ・数学A 数学Ⅱ・数学B 数学C（数研出版）		副教材	キートレーニング数学演習Ⅰ・Ⅱ・A・B・C受験編 （数研出版）		
準備物	教科書 ・ 副教材 ・ ノート ・ タブレット					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	認知力・分析力	分析力・思考力・表現力・探究力	行動力
割合	35%	35%	30%
A	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に十分に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能を十分に身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力を十分に身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分に身に付けている。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、十分に判断できる。 ・問題解決の過程を振り返って十分に評価・改善できる。
評点	26~35	26~35	18~30
B	・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的にやや理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能をやや身に付けている。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力をやや身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力をやや身に付けている。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、やや判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返ってやや評価・改善しようとしている。
評点	11~25	11~25	11~17
C	・数学における基本的な概念や原理・法則などの理解が不十分である。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現・処理したりする技能が不十分である。	・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力が不十分である。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が不十分である。	・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的根拠に基づき、判断しようとしていない。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていない。
評点	0~10	0~10	0~10
評価方法	・定期考査	・定期考査	・課題等演習の取組み状況

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	第10章図形と方程式	26. 点と直線 27. 曲線と直線
5	第5章場合の数と確率	28. 軌跡と領域 13. 場合の数, 順列 14. 組合せ 15. 確率(1) 16. 確率(2)
6	第14章数列	39. 等差数列・等比数列 40. 種々の数列 41. 漸化式と数列 42. 数学的帰納法, 数列の応用
7	前期中間考査 第7章整数の性質	19. 約数と倍数 20. 不定方程式 21. 整数の種々の問題
8	第16章ベクトル	44. ベクトル 45. ベクトルと平面図形 46. ベクトルと空間図形
9	第6章図形の性質	17. 図形の性質(1) 18. 図形の性質(2)
10	第13章微分法・積分法	33. 導関数と接線 34. 関数の値の変化 35. 微分法の応用 36. 不定積分・定積分 37. 面積(1) 38. 面積(2)
11	前期期末考査 第3章図形と計量	9. 三角比の基本 10. 三角比と図形(1) 11. 三角比と図形(2)
12	第4章データの分析	12. データの分析
1	第11章三角関数	29. 三角関数(1) 30. 三角関数(2)
	第2章2次関数	5. 関数とグラフ 6. 関数の最大最小 7. 2次方程式, 2次不等式 8. 2次関数のグラフとx軸の共有点
	第12章指数関数・対数関数	31. 指数関数・対数関数(1) 32. 指数関数・対数関数(2)
	第1章数と式	1. 式の計算 2. 式の値 3. 1次不等式 4. 命題と集合
	第9章複素数と方程式	24. 複素数とその計算, 2次方程式の理論
	第8章式と証明	25. 剰余の定理・因数定理, 高次方程式 22. 二項定理, 多項式の除法, 分数式の計算 23. 恒等式, 等式・不等式の証明
	第15章統計的な推測	43. 統計的な推測
12	後期中間考査	
1	センター演習 2次対策演習	共通テスト対策問題集 2次対策問題演習

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1) 学習する内容を理解するだけでなく、学習する目的や必要性も意識すること。
- (2) 単に公式を暗記するのではなく、公式ができた理由やその活用の仕方から数学的な見方や考え方のよさを知ること。
- (3) 「なぜ」「どうして」という疑問をもちながら授業に参加すること。

「数学」は「理科」・「社会」・「国語」ともつながる重要な教科です。

- (4) 数学は積み重ねが大切な教科です。必ず予習をし、授業のあった日は必ず副教材で復習すること。この繰り返しで学力の向上につながります。

令和 6 年度（2024年度） シラバス（倫理）

教科	公民科	科目	倫理	3学年	選択	3単位
科目の目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促進し、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。					
教科書	高等学校 新倫理(清水書院)	副教材	最新倫理資料集テオーリア2024年版(第一学習社) 完全MASTER 倫理＋公共問題集(清水書院)			
準備物	教科書1冊・副教材2冊・プリントファイル・タブレット端末					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
旭東DP	【認知力】 【創造力】	【思考力】	【探究力】
割合	35%	35%	30%
A	宗教や先哲の思想などの基本的な知識を身につけるとともに、与えられた原典資料などから先哲の考えや時代背景を推測し、他の資料との共通点や相違点を見つける技能を十分に身に付けている。	与えられた問いや自ら立てた問いに対して説明したり、それらを基に議論したりする力を十分に身に付け、先哲の考えにおける抽象的なものを、自らの日常などの具体的な場面において説明することができる。	人間としてのあり方や生き方、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を十分に身に付けており、自ずと問いを立て、自ずと解決への道筋を立てている。
評点	28～35	28～35	24～30
B	宗教や先哲の思想などの基本的な知識を身につけてはいるが、与えられた原典資料などから先哲の考えや時代背景を推測し、他の資料との共通点や相違点を見つける技能は不十分である。	与えられた問いや自ら立てた問いに対して説明したり、それらを基に議論したりする力を十分に身に付けてはいるが、先哲の考えにおける抽象的なものを、自らの日常などの具体的な場面において説明することは不十分である。	人間としてのあり方や生き方、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けており、自ら問いを立てようと試行錯誤している。
評点	14～27	14～27	12～23
C	宗教や先哲の思想などの基本的な知識や、与えられた原典資料などから先哲の考えや時代背景を推測し、他の資料との共通点や相違点を見つける技能ともに不十分である。	与えられた問いに対する考えを持つことができるが、説明したりすることが不十分であり、抽象的なものから具体的なものへの説明もできない。	人間としてのあり方や生き方、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度が不十分であり、自ら問いを立てることができない。
評点	～13	～13	～11
評価方法	定期考査・小テスト	定期考査・小テスト	取組状況 レポート

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	○個性的な主体としての自己 ○心と行動をめぐる探究 ○哲学の始原	・人間の心、個性、青年期について ・人間の活動と認知の仕組みについて ・ギリシア思想（ソクラテス～ヘレニズム）
5	○唯一神の宗教 ○東洋思想の源流	・ユダヤ、キリスト、イスラーム教について ・仏教、古代中国の諸子百家について
6	※各単元ごとにレポート課題【態】 個性・青年期についての小テスト【知】 前期中間考査【知】【思】	
7	○人間の尊厳 ○真理の認識 ○民主社会と倫理① ○民主社会と倫理② ○現代社会と個人①	・ルネサンス～モラリスト(パスカル)について ・経験論と合理論について ・社会契約説、啓蒙主義について ・ドイツ観念論および功利主義について ・資本主義批判と実存主義について
8	○現代社会と個人② ○近世の世界観・人間観の問い直し	・現象学および、公共性と正義について ・言語論的転回、科学観の転換について
9	※各単元ごとにレポート課題【態】 西欧人物についての小テスト【知】 前期期末考査【知】【思】	
10	○日本人の人間観・自然観・宗教観 ○日本人の仏教受容 ○近世社会の思想① ○近世社会の思想② ○西洋近代精神の摂取	・日本の風土、神概念、神仏習合について ・仏教伝来～鎌倉仏教の発展について ・朱子学、陽明学、古学について ・国学～江戸時代の思想について ・啓蒙思想家について
11	○近代的個人の自覚 ○主体的な生き方と価値観の模索	・近代的自我と日本における個人主義について ・近代日本の哲学者について
12	※各単元ごとにレポート課題【態】 日本人物の小テスト【知】 後期中間考査【知】【思】	
1	○自然や科学技術をめぐる諸課題① ○自然や科学技術をめぐる諸課題② ○社会や文化にかかわる諸課題	・環境と倫理について ・生命と倫理について ・文化、宗教、国際平和について
2	○まとめ	
3		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

教科書の単元に沿って、プリントや副教材で補足していきます。授業で設定された問いに対して、ペアワークなどを取り入れ、自分の考えを表現したり、他者の意見を取り入れたりします。また、単元ごとに、既習した内容の中から、自らが考えた問いをレポートで表現します。

留意点としては、大学入試共通テスト「倫理」受験に対応するために、単なる用語や事項の暗記では不十分と考えられます。先人たちの見方や考え方といった視点の適切な認知を基礎に、多様化・複雑化する現代社会の中で確立した個の視点を身につけ、先人たちの生きた社会・時代背景について多角的・多面的に探究することも大切です。「どのような状況で、何を目的に、どのような視点を持ったのか」という観点から「物事の本質を見る態度を身につける」訓練をしていきましょう。そのため、日頃から、倫理の教科書やプリントだけではなく、時事的問題・課題、多様なジャンルの書物等に触れ、多様なものの見方や考え方を知る機会を増やしていくと良いでしょう。

令和 6 年度（2024年度） 【論理国語 シラバス】

教科	国語	科目	論理国語	3 学年	必修	2 単位
科目の 目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する能力を育成する。					
教科書	探求 論理国語 (桐原書店)		副教材	新版七訂 新訂総合国語便覧 (第一学習社)		
準備物	教科書・ノート・国語便覧					

1 学習目標と評価（どのような力を、どのレベルまで身に付けるか）

観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
		書く	読む	
旭東DP	【認知力】 【分析力】	【思考力】 【表現力】		【行動力】 【共感力】
割合	40%	20%	20%	20%
A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分に身に付けられた。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、論理的に自らの思いや考えを文章で表現することが十分にできている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、論理的、批判的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが十分にできている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が十分に養われている。
評点	21～30	15～20	21～30	15～20
B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けられた。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、論理的に自らの思いや考えを文章で表現することができている。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、論理的、批判的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることができている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が養われている。
評点	11～20	9～14	11～20	9～14
C	実社会に必要な国語の知識や技能の習得が不十分である。	他者に伝えることを意識しながら、適切な言葉を用いて、論理的に自らの思いや考えを文章で表現することが不十分である。	文章の種類を踏まえて、叙述を基に内容や要点を的確に捉えたり、論理的、批判的に評価したり、書き手の意図を解釈したりすることが不十分である。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が不十分である。
評点	～10	～8	～10	～8
評価方法	定期考査 小テスト	定期考査 提出物の内容	定期考査	提出物の内容 取り組みの様子

2 学習計画（いつ、何を学ぶか）

月	単元名	具体的な学習内容
4	◎評論Ⅰ 『オブジェとイマージュ』 『人間の領域』	論旨を理解し、要約する。 抽象的表現を簡潔、明快な言葉で表現する。 論理構造を理解し、活用・表現する。
5	◎評論Ⅱ 『市民社会化する家族』 『身体と出現』	論述の内容に基づき、自己の考えを表現する。 多くの考えに触れ、様々な視点から物事を思考する。 ※以上を、教材の内容を鑑み、選択して実施する。
6	前期中間考査	
7	◎評論Ⅲ 『言葉の〈意味〉と〈表徴〉』 『霧の風景』 『貫之は下手な歌よみか？』	論旨を理解し、要約する。 抽象的表現を簡潔、明快な言葉で表現する。 論理構造を理解し、活用・表現する。
8	◎体験と思索 『沙魚』	論述の内容に基づき、自己の考えを表現する。 多くの考えに触れ、様々な視点から物事を思考する。 ※以上を、教材の内容を鑑み、選択して実施する。
9	前期期末考査	
10	◎評論Ⅳ 『ファンタジー・ワールドの誕生』 『ポストモダンと排除社会』 ◎近代を見つめる ◎評論Ⅴ 『地図の想像カーボードリヤールの寓話』 『真理の探求と民主主義』	論旨を理解し、要約する。 抽象的表現を簡潔、明快な言葉で表現する。 論理構造を理解し、活用・表現する。 論述の内容に基づき、自己の考えを表現する。 多くの考えに触れ、様々な視点から物事を思考する。 ※以上を、教材の内容を鑑み、選択して実施する。
	後期中間考査	
12	問題演習【記述型・選択型】	問われたことを的確に理解し、適切に自分の言葉で表現する。
1		

3 学習方法（どうやって学ぶか）

- (1) 漢字や語句の意味等、重要だと考えられる語句について定期考査やその他の機会を通じて定着度をはかる。それだけではなく様々な文章を読み、積極的に語彙量を増やすよう心掛けること。
- (3) 「書くこと」に関しては、年間複数回の課題を作成・提出することを求める。課題は期限を守って確実に提出すること。
- (4) 「読むこと」に関しては、教科書にある文章を教材として使用するが、定期考査ではそれら以外に初見の文章からも出題する。論理の構成や展開の仕方等、読み方を身に付けようとする。
- (5) 主体的に読書することを強く勧める。書籍になっているもの以外にも、本校で毎日発行している「小論情報」や「本日のコラム」等を読むようにしよう。
- (6) 国語の授業を通して身に付けることは言葉に関する知識や技能、それを活用して思考したり表現したりする力であるため、他の教科・科目に応用できる。それを意識して授業に臨むこと。